



經典餘師  
孟子二  
七

11  
2047  
7





孟子 卷 七 2047

孟子朱熹集註

孟子朱熹集註

溪世尊 譯

公孫丑章句上

公孫丑問曰夫子當路於齊管仲晏子

之功可復許乎

公孫丑の問小り夫子齊の國に  
用らるる國の政務を執るるに  
之の要地の路に當り如何なる功を立らんとや古へ  
齊の名を擧ぐり管仲晏子等よおとらんと夫子の  
心許らる  
かとなり

孟子曰子誠齊人也知管仲晏子而已

矣御管仲晏子ハ誠一齊小生れ人ち有て只  
管仲晏子を勝し人と而已るなり或問

公孫丑章句上  
公孫丑問て曰く  
夫子齊に當路  
とバ管仲晏子  
之功復許も可乎

孟子曰く子誠  
齊人なり管仲  
晏子を知已  
或い曾西問て







王の徳を以て百  
年にして而して  
後崩じ猶未  
天下に洽つて未  
武王周公之経  
下然して後大  
行る今王さる  
易が若しと言  
然則ハ文王ハ  
法さるに足不與  
曰く文王何を當  
可湯由武丁小  
至て賢聖之君  
六七作天下殷  
歸る久し  
難し武丁諸

然後大行今言王若易然則文王不足  
法與公孫丑又曰く若のの時ハ不佞の心滋甚或心  
如何となさば周の興るるがめ文王の身取王に在  
ずしてさる百年して崩じさるるを天下へその威光御惠  
洽るるその跡ハ武王周公の二聖人引つひて出るの而後  
小なりと御威光さるるハ今先生ハ齊の王となさる  
るが心易う人とさるるハ聖人文王も法とさるるに足とさる  
るやと曰文王何可當也由湯至於武丁  
賢聖之君六七作天下歸殷久矣久則  
難變也武丁朝諸侯有天下猶運之掌  
也紂之去武丁未久也其故家遺俗流  
風善政猶有存者又有微子微仲王子

侯を朝し天下  
を有て之を掌  
紂之武丁と去  
未久し  
其故家遺俗流  
風善政猶存  
者有又微子微  
仲王子比干箕  
子膠鬲有皆賢  
人相與之輔  
相故がゆへに  
後之を失さる  
尺地其有非  
莫民其  
臣非と莫

比干箕子膠鬲皆賢人也相與輔相  
之故久而後失之也尺地莫非其有也  
一民莫非其臣也然而文王猶方百里  
起是以難也御登文王ハ至徳の聖人なる何  
双當とさるる周の起る紂ハ所以  
あつた殷の世とらハ聖人湯王ハ始  
として賢明の王あり其間六十人も明君出た  
天下の人殷の世を戴き歸服し久矣久矣  
易の時ハ變じさるるのなり其武丁の帝ハ中  
入さるる諸侯を懐朝せし事掌中ハ物を運ぶ  
易の武丁より紂王までハ間もさるる紂王ハ不徳  
の故に家さるるの忠臣又ハ右聖人の遺俗風流善政  
猶この時ハ存てあり其久し五人の賢人王の輔相とさる  
てさるる漸く年経て天下を失さるる一尺の地も一人の  
民もさるる紂王の有る臣なるもその中さるる



然して文王猶が百里起是とて

難

齊人言有曰知

慧有雖も勢

あひ乗に如不

器有と雖も時

待も如今の時

則ち然り易

夏后殷周之盛

地千里過も者

未而して齊其地

相聞て四境達

而して齊其民

有地改り碎不

民改り聚不仁政

文王ハ百里の國より齊人有言曰雖有智慧

不如乘勢雖有鎡基不如待時今時

則易然也

齊の國として常く言はるるハ如何

たハ善田地の鎡基あつても時節を待たずしてハ出来

かたハ同じとて今の時ハ王道を行はるるハ

則ち易然と時節と夏后殷周之盛地未有過

千里者也而齊有其地矣雞鳴狗吠相

聞而達乎四境而齊有其民矣地不改

辟矣民不改聚矣行仁政而王莫之能

禦也

夏殷周二代の後の盛なり一時もヤリハ

土地ハ千里過も今齊ハ大國と云ふものハ人民

多く四方の境まで家居つて狗の吠え鶏の鳴り

たりとて仁政を施さるるハ別ハ土地を改む

辟くに及ばざるも民家を此より聚めざるも及ば

自然と權勢をとる王者と云ふものハ敵國を

禦するも

且王者之不作未有疏於此時

有未民之虐政

焦悴も未此時

者有未饑も者

ハ食とて為易

渴も者ハ飲と

為易

孔子曰徳之流行置郵而傳

命

徳の流行し速に

命



當今之時萬乘之國仁政を行はば民之之悦を悦ぶ故に懸を解す人半にして功必ず倍し人惟此時を然と為

公孫丑曰曰夫子加齊之卿相と加道を行き得此由て霸王

雖も異し不此の如く則ち孟子の曰く否我平心を動さず不

早と大とと成るが如く聖人の多う

**當今之時萬乘之國行仁政民之悦之猶解倒懸也故事半古之人功必倍之惟此時為然**

當今の時、萬乘の大國、仁政を行はば、民の悦ぶを悦ぶ。故に倒懸を解す。人半にして功必ず倍し。人惟此時を然と為す。故に

公孫丑の曰く、夫子、齊の卿相を身に加之て、道を行き、得此由て霸王となす。雖も異し、不此の如く、則ち孟子の曰く、否、我平心を動さず、不

公孫丑問曰夫子加齊之卿相得行

**道焉雖由此霸王不異矣如此則動心否乎**

孟子曰否我四十不動心

曰く是の如く人バ則ち夫子孟賁と過と遠と曰く是難う不生子我先づつて心と動さず不

曰く心を動さず不道有乎曰く有

それハ異し、然し、如く、行ハ必ハ恐懼疑惑し、心も動さず、心も動さず、孟子の御答に、

不の如く我四十の比より、曰若是則夫子過孟賁遠矣、曰是不難、告子先我不動心、

公孫丑又曰、今夫子の詞の如く、孟子の御答に、是難、

子曰不

北宮黝之勇を養ふ、膚撓ま不目逃ろうと思

北宮黝之勇を養ふ、膚撓ま不目逃ろうと思、

**北宮黝之養勇也不膚撓不目逃思以一毫挫於人若撻之於市**



朝不受於褐寬博亦不受於萬乘之君  
 視刺萬乘之君若刺褐夫無嚴諸侯惡  
 聲耳至必反之  
 物を見て目迷て以て常一ツの毫の先り人よ  
 推どる時ハ市町又ハ朝なると人の中を推どる  
 如くありたり褐寬博とる者も受入ざる萬乘の  
 大名も受入ざるハ万乘の君を刺殺すと褐夫を  
 殺すと若し心得るなり諸侯を畏嚴とたり惡声と  
 聞て死に必て仕反るとりあつた人なり

朝不受於褐寬博亦不受於萬乘之君  
 視刺萬乘之君若刺褐夫無嚴諸侯惡  
 聲耳至必反之  
 孟施舍之所養勇也曰視不勝猶勝也  
 量敵而後進慮勝而後會是畏一軍  
 者也舍豈能為必勝哉能無懼而已

軍を畏る者也  
 舍豈能必勝と  
 為能懼と無而已

孟施舍ハ曾子  
 似る北宮黜ハ  
 子夏似る夫  
 二子之勇未其  
 孰賢を知ら未  
 然して子孟施舍ハ  
 約を守

昔者曾子子襄  
 謂て曰く子  
 勇と好む乎吾

矣  
 又子孟施舍とるハ懼るを以て勇  
 氣と云ふ大と云ふ是ハ不勝と云ひても勝猶一と云ふなり

孟施舍似曾子北宮黜似子夏夫二子  
 之勇未知其孰賢然則孟施舍守約也

右北宮黜ハ是非に敵對をたり子孟施舍ハ己が  
 守るを守り是二人と曾子子夏とハ之より守り

論じ事ハ一ハありて其氣象相似たりとて  
 子夏ハ驚く取王人をも信し曾子ハ我身に之

昔者曾子子襄  
 謂て曰く子  
 勇と好む乎吾











與を配を是餽  
と無

是集義の生る  
所の者なり義と  
龍表て之を取  
非を行かざらば  
憊より不有則  
から餽我故曰  
曰く告子未  
嘗て義を知ら  
未其之を外小  
まると以てやう

必らむ事有正  
めらむと勿心  
忘らむと勿助  
長し勿を宋人  
の若く然まると  
無を宋人其苗之  
長を不を関い而  
して之を握者有  
芒芒然とて歸  
其人と謂て曰く  
今日病る予苗を  
助て長を其子  
趨て往て之を  
視て苗則ち稿  
天下之苗を助  
長を不者寡  
以て益無と為之

與道無是餽也  
上より正直を以て養なり  
内小ある本體をいふるに  
かへハ外へ發する用をみ  
かへハ義と道とをとおこ  
ちるは疑惑となくして  
小うして不足なるやう  
ちるは疑惑となくして  
小うして不足なるやう

是集義所生者非義襲而取  
之也行有不慊於心則餽矣我故曰告  
子未嘗知義以其外之也

義は心より生るるに集まるる而して氣浩然と其  
義より生れて出るは身のおこなるも道  
とに合はる一ツの義理の合を襲はるるを以て  
さふとの義にらるるべしとを稱するはあやまるこ  
たくの発するもさかたハきとる事して義を  
さふとの義にらるるべしとを稱するはあやまるこ  
たくの発するもさかたハきとる事して義を

然宋人有関其苗之不長而握之者芒  
芒然歸謂其人口今日病矣予助苗長  
矣其子趨而往視之苗則稿矣天下之  
不助苗長者寡矣以為無益而舍之者  
不耘苗者也助之長者揠苗者也非徒











曰く姑く是を

舎

曰く伯夷伊尹ハ

何如曰く道と

ち不其君非

事不其民非

使不治

則進と乱と

則進と乱と

則進と乱と

則進と乱と

則進と乱と

則進と乱と

則進と乱と

則進と乱と

則進と乱と

則進と乱と

則進と乱と

則進と乱と

則進と乱と

則進と乱と

則進と乱と

則進と乱と

則進と乱と

則進と乱と

則進と乱と

則進と乱と

則進と乱と

則進と乱と

公孫丑又曰く竊く聞きて事あり昔者聖人の

の御門人の内にして子夏の輩が各々聖人の體

を具て顔淵の類ハ聖人と異ならず聖人の體を

具て微少なりとのかたう敢て御問トハ夫子の

く此六人のうちこそ誰人の場所ト

曰姑舎是

孟子の曰く姑く是を舎おめて問ふは

曰伯夷伊尹何如曰不同道非其君不

事非其民不使治則進亂則退伯夷也

何事非君何使非民治亦進亂亦進伊

尹也可以仕則仕可以止則止可以久

則久可以速則速孔子也皆古聖人也

吾未能有行焉乃所願則學孔子也

公孫丑又曰く然バ伯夷伊尹の二人ハ如何孟子の曰く

此二人も各々行道同くバ伯夷ハ我心ハ君と

人なりてハ事と我心ハ唯ハ民なりてハ使ハ

出で進んで人ハ交ハ世に退いて隠者と

なり伊尹の心ハ何の擇もたう事と

るハ世ハ進で出まハ世ハ進で出ま

出まハ世ハ進で出まハ世ハ進で出ま

出まハ世ハ進で出まハ世ハ進で出ま

出まハ世ハ進で出まハ世ハ進で出ま

出まハ世ハ進で出まハ世ハ進で出ま

出まハ世ハ進で出まハ世ハ進で出ま

出まハ世ハ進で出まハ世ハ進で出ま

出まハ世ハ進で出まハ世ハ進で出ま

出まハ世ハ進で出まハ世ハ進で出ま

出まハ世ハ進で出まハ世ハ進で出ま

出まハ世ハ進で出まハ世ハ進で出ま

否自有生民以來未有孔子也

何れ位班ハ聖人なりや孟子の曰く不

用人民生てより以來孔子の如き聖人有未と

孔子有未

伯夷伊尹が孔子

伯夷伊尹於孔子若是班乎曰



曰く然ハ則ち同ト云々有與曰く有百里之地を得て之ヲ君ヨリ比自能以て諸侯を朝一天下と有ん一の不義を行ふ一の不辜を殺して天下を得皆為不是則ち同ト云々

曰く敢て其異を所以と曰く幸我子貢有若智以て聖人を知り是汗も其好む所も阿するに至

不宰我曰く予を以て夫子を觀バ堯舜ノ賢なるを遠子貢曰く其礼と見て其政とを其樂を聞て其徳とを知百世之後由百世之王と等するん之能違と莫生民自以來未だ夫子有未

曰然則有同與曰有得百里之地而君之皆能以朝諸侯有天下行一不義殺一不辜而得天下皆不為也是則同

又曰て曰く然ハ行なひよ於て同と亦ありや御對元より能くも有たと百里四方の地より興て天下の帰服を得て上り立諸侯を來朝せしめ天下を有んよ一ツもして不義を行はせし一人も不辜を殺してなると懸

曰敢問其所以異曰宰我子貢有若智足以知聖人汗不至阿其所好公孫丑又問て曰く然ハ孔子の如き聖人ハ

汗たるも自身の好むところを私に阿諛する人といふに宰我曰く予を以て夫子を觀奉つるも堯舜二人の帝よりも

其禮而知其政聞其樂而知其徳由百世之後等百世之王莫之能違也自生

民以來未有夫子也子貢も云つる礼を世の其政務を知りたかり其樂私の徳を見てその

惟民哉麒麟之於走獸鳳凰之於飛鳥有若曰豈



於る鳳凰之飛鳥  
於る太山之丘垤  
於る河海之行  
於る民之類也  
聖人之民也  
亦類なり其類を  
出其萃  
拔生民自以來未  
有孔子より成  
有未  
孟子の曰く力を  
以て仁を假者ハ  
大國を有徳を  
以て仁を行ふ  
者ハ王より王ハ大  
を待不湯ハ七十

里を以てて文王  
ハ百里を以てて  
力と以てて人を服  
する者ハ心服非  
ざるなり力贍不  
はなり徳を以て  
人を服する者ハ  
中心悦んで誠  
服するなり七十  
十子之孔子ハ服  
云々西自東自南  
自北自思ハ服セ  
不無此之謂

太山之於丘垤河海之於行潦類也聖  
人之於民亦類也出於其類拔乎其萃  
自生民以來未有盛於孔子也

有若く飛鳥の如くハ鳳皇あり山を走るの如くハ麒麟あり海を渡るの如くハ鯨あり河海を見くぐるの如くハ孔子あり

○孟子曰以力假仁者霸霸必有  
大國以德行仁者王王不待大湯以七十  
里文王以百里

服一愛憐を見えて人を懐り賞罰を明けて人を  
歸服せしむれば仁を假るなり示すとらぬのなり  
その故一國の勢ハ大なりにしてハ能ハざるなり  
王者ハ大國なりても自然の徳を以て心中の仁愛より  
民を子の如く恤むる  
應神天王ハ徳天王の御たふなる思を考へ一以力  
服人者非心服也力不贍也以徳服人  
者中心悦而誠服也如七十子之服孔  
子也詩云自西自東自南自北無思不  
服此之謂也



孟子の曰く仁は  
ハ則ち辱不仁  
今辱を惡して不仁  
居ハ是濕なり  
を惡んで下に居  
猶  
如之を惡まば德  
を貴んで士を  
尊ぶ如く莫  
賢者位に在能  
者職に在國家  
間暇是時及ん  
て其政刑を明に  
せば大國と雖も  
必らんと之を畏る

詩云く天之未  
陰雨未也迨  
彼桑土徹て  
牖戸を綢繆  
此下民敢て予  
侮く或ん孔子  
曰まはく此詩を  
為者ハ其道を  
知平能其國家  
を治むハ誰り敢  
之を侮らん  
今國家間暇是  
時及んで般樂  
怠教を是自  
禍福己を自之

孟子曰仁則榮不仁則辱今惡辱而  
居不仁是猶惡濕而居下也

愚にあらざる処の仁心を行ふたまは榮ざる事や  
あんに仁なきは辱を受ざるのたまり今の人  
辱めらるやとぢひまは仁心の場も居たり是猶濕  
ことと惡しむらひて却て下に土地に居小く

如惡之莫如貴德而尊士賢者在位能  
者在職國家間暇及是時明其政刑雖

大國必畏之矣

人の上る者弟一慎むべし  
事たり如辱めを惡とぢひまは  
徳ある人を尊むひひて能ある人を貴む  
賢人を上位にすも能者各く官職に在りて其  
かく治せしめ國家間暇たる時其政刑を明  
くして仁心と施しぬる人帰服して大國を畏へ

詩云迨天之未陰雨徹彼桑土綢繆牖  
戸今此下民或敢侮予孔子曰為此詩  
者其知道乎能治其國家誰敢侮之

此詩の心ハ鳥の巢を作し雨の難義我つまご全ぬる  
防をたぐるの心なり天の陰て雨の催しぬるを以て波桑  
の葉又ハ土ちとどつら徹来て巢の牖戸の処を綢繆  
るひとたぐるの心なりたて國を治るもその政道  
の源を綢繆るハ乱害の生じらるるを敢て予を侮  
し或は是周公の作る処なり聖人其を好む

今國家間暇  
能治其時誰り敢て之を侮らん

及是時般樂怠教是自求禍也

是世間暇たる小乘て人般樂怠教の禍福

禍福

禍福



求者無

詩云永言配命

自求多福

太甲曰天作

孽猶可違

自作孽不可活

此之謂也

孟子曰賢者

尊使能

俊傑在位

則天下之士

皆悅而願

立於其朝

矣

無不自已求之者

本禍も福も自ら求め引出すの理

詩云永言配命自求多福太甲曰天作

孽猶可違自作孽不可活此之謂也

詩經の常道を重く守りて永く天の命を配するを言ふ自ら多々の福を求むの理なり書經

の大甲の篇に曰く旱暵水暵を五穀の害あれども必しも死せざるなりこれ天の作孽ハ猶違

べさたりきまごも自ら作罪外ハ活ぶるべしとたり

○孟子曰尊賢使能俊傑在位則天下

之士皆悅而願立於其朝矣

名ある士徳ある人皆その下に尊び能ある人を其朝に立す

後く小使て俊傑者位に備はせられしと聞て天下の名ある士も悦びて何とぞわらふその朝に班らん

とと稱する市塵而不征法而不塵則天下

之商皆悅而願藏於其市

市塵の者征すを願ふ

關譏而不征則天下之旅皆悅而願出

於其路矣

國の境所くの役ハ其非常に於て旅人の荷物亦の征と

耕者助而不

稅則天下之農皆悅而願耕於其野矣

田地を耕すの法まへより井田の助法を用てその征撫をわけさる天下の農人これを聞て悦びてその

求者無

詩云永言配命

自求多福

太甲曰天作

孽猶可違

自作孽不可活

此之謂也

孟子曰賢者

尊使能

俊傑在位

則天下之士

皆悅而願

立於其朝

矣

市塵

而不征

法而不塵

則天下之商

皆悅

而願藏

於其市

關譏

而不征

則天下之旅

皆悅

而願出

於其路

矣

耕者

助而不

稅

則天下

之農皆







人比白人よ忍び不  
之心有と謂所以  
の者ハ今人乍  
孺子の將よ井に  
入と將と見て比  
怵惕惻隱之心有  
交りて孺子之父母に  
内所以非と答  
を郷黨朋友よ  
要むる所以非  
ど其殼耳を惡で  
然非と

是よ由て之を觀  
ハ惻隱之心無ハ人  
非と羞惡之心  
無ハ人よ非と辭  
讓之心無ハ人よ非  
ど是非之心無ハ  
人よ非と

惻隱之心ハ仁之端  
羞惡之心ハ  
義之端なり  
讓之心ハ禮之端  
智之端なり  
是非之心ハ智  
之端なり

政道なりそのまのびざらるる天下に充まバ  
人々歸服して心安く治まらるるハ堂上ふりのと握ケ如ク  
所以謂人皆有不忍人之心者今人乍  
見孺子將入於井皆有怵惕惻隱之  
心非所以内交於孺子之父母也非所  
以要譽於郷黨朋友也非惡其殼耳  
而然也  
たよハ今孺子のまはまへるる井戸へ走  
りて落るとまらるとまらた人々を殺して金を太集を  
まらるる者もまらるるを見てハ拘留人とまらるる心かこ  
るるまらるる心ざらるる心ハ仁心の備らるる證據なり人を  
殺の惡心のまらるるそれハ欲とらふとつもの者にまらるるかゆへ  
是ハ毎我毎心本心ありハ其のまらるる其の孺子と抱  
留るるまらるる本入魂のまらるる其の父母より求め内とらるる

所存するもやう又善心ありと譽を郷黨の朋友よ要  
りてまらるるまらるる人よ惡まらるるにいつるる聲を忍まらるる然にまら  
ふてまらるる心とこらて  
能く本心と思惟らるる由是觀之無惻隱  
之心非人也無羞惡之心非人也無辭  
讓之心非人也無是非之心非人也

是理り由て考ぐ觀バ人ハ心強くして惻隱のまら  
ると無く似るる者あり能く人の非人なるるまらるる羞惡  
心ハ人といふまらるる辭退の心も  
惻隱之  
心仁之端也羞惡之心義之端也辭讓  
之心禮之端也是非之心智之端也

凡そ人の形を受るの始めと善心なりまらるるハ人の  
惡心の生るるハ習として生長するにまらるる見聞する



人之是四端有ハ  
其四體有ハ猶一  
是四端有て而一  
謂者ハ自ハ其君  
能ハ不と謂者  
ハ其君を賊する  
者ナリ

人之有是四端也  
猶其有四體也  
有是四端而自謂不能  
者自賊者也  
謂其君不能者賊其君者也  
齊之有也  
謂其君不能者賊其君者也  
不能と云ハ  
凡有四端於我者  
知皆擴  
而充之矣  
若火之始然  
泉之始達  
苟能

若一苟能之  
を充バ以て四海  
を保スルハ足  
苟  
之を充バ以て  
父母ノ事ハ足不

充之足以保四海  
苟不充之不足以事  
父母  
右四ツの端のありし事なりハ願ハス夫を  
為て其心の充滿もやりの理を辨知バ  
ちりバ遂ハ仁義礼知し物となりハ火の然始也  
のてくまハ泉の水の始達の如く如く遂ハ大なる  
べ一此四ツの物たる時ハ天下四海をも保ト若くは充  
となりて涸として父母妻子をも保養らとの  
いづつらと

孟子の曰ク矢人  
豈函人ハ仁  
不武矢人ハ惟人を  
傷不を恐る函人ハ  
惟人を傷を恐る  
巫匠亦然故  
術ハ慎  
不ハある可

○孟子曰矢人豈不仁於函人哉  
矢人  
唯恐不傷人  
函人  
唯恐傷人  
巫匠亦然  
故術不可不慎也  
矢人を作人ト申骨を作人ト  
人と並教がた矢師ハ函人  
何なる堅と甲冑もその矢を以て傷殺さんと欲さるる如



孔子曰まが里ハ

仁ハ處不バ焉

知ヲ得ん夫

仁ハ天之尊爵

人之安宅

之ヲ御宗ぐと莫

して而して不仁

ハ是れ不智ナリ

不仁不智無礼無

義人の役ナリ

役ハ人ナリ

而して弓ヲ為

矢人ナリ

而して後

發發而不中

不己勝者

怨不反諸己

孟子の曰く

路人有過

則ち喜ぶ

人の命を以てして死すは甲冑を以てして死す若や

然しとて己が業の繁昌を好むは仁と不仁との違

慎しむべし孔子曰里仁為美擇不處仁

馬得智夫仁天之尊爵也人之安宅

也莫之御而不仁是不智也

朱子云此は俗風ある村里に誠り人も住居するを美と

場より居住せざれば馬に智を得たり人をも仁義と

不仁不智無禮無義人役也人役而恥

為役由弓人而恥為弓矢人而恥為矢

也如恥之莫如為仁

仁者ハ射の如く射

者己を正し

而して後

發發而不中

不己勝者

怨不反諸己

孟子の曰く

路人有過

則ち喜ぶ

孟子の曰く

路人有過



禹聞善言則拜

大舜有善人與同

則以善為

耕稼陶漁

自以帝為

為是取

為者

子路の為人として人より是ハ不善と云く是ハ道なる  
ぬ事なりとその過失を告来りしをバ殊に喜ぶの  
其レとぞ誠ニ禹聞善言則拜 聖人禹王ハ  
其レがたれと云

大舜有善人與同 聖人舜帝の大なる徳といふも善事と人よか  
拜 其レがたれと云

同舍己從人樂取於人以為善 聖人舜帝の大なる徳といふも善事と人よか  
行なるに同く行なふまう己不足なる事不善なる

自耕稼陶漁以至為帝無 樂一と云

非取於人者取諸人以為善是與人為 樂一と云

善者也故君子莫大乎與人為善 樂一と云

君子人與善を 耕稼一ありハ陶治漁と云を云くは時を

莫大乎與人為善 帝と云くは天子の間に人より善事を取非し

其君非其君不事非其友不 上りつちりつち君子ハか振舞

立不惡人之朝言以朝衣朝冠坐 友不立於惡人之朝不與惡人言立於

於塗炭推惡惡之心思與鄉人立其冠 不正望望然去之若將浼焉是故諸侯

雖有善其辭命而至者不受也不受也 雖有善其辭命而至者不受也不受也

君子人與善を 莫大乎與人為善 其君非其君不事非其友不立不惡人之朝言以朝衣朝冠坐於塗炭推惡惡之心思與鄉人立其冠不正望望然去之若將浼焉是故諸侯雖有善其辭命而至者不受也不受也

孟子曰伯夷非其君不事非其友不立於惡人之朝不與惡人言立於塗炭推惡惡之心思與鄉人立其冠不正望望然去之若將浼焉是故諸侯雖有善其辭命而至者不受也不受也







所行ハ恭の場なりしてたまのちうのびも常の人  
してハあゝのひとも上に位をつゝのひも君子の由行  
道  
あゝのひとも

### 公孫丑章句下

孟子曰天時不如地利地利不如人和

此段殊々真理ふくく在大功の場かゝる世の中のことハ  
人の道をも尽くし行ふふを榮つとて人道ハ重といふを

詭より本人間天を頼奉まつ事ハ聖人天地の神  
明の法とて道をさすゆへなり是聖人の道なり

殊々天朝ハ日月國家の神明を尊戴して頼奉る  
事第一義なり然れどもその理を考へ人事を尽くすに

あり此段の意ハ別義あまざる識見なき人の為  
これを論じざるの段の意ハ危を天下を治る小も又

一家を治るといふ人の親と和ぐとて得ては叶は  
ふべたといふ天の運りてても地の要害利不利を考へ

不利とてハ益なりたると春夏の時節たかくても土地  
不利とてハ麥米生むるの理なり天の時地の利相應

理なりと人これを種藝せれば生熟の三里之城七  
里之郭環而攻之而不勝夫環而攻之

必有得天時者矣然而不勝者是天時  
不如地利也

三里とハ小城郭をりつ本城とハ内  
郭とハ擲手なり二の郭とハ大手郭なり夫とて外を

幾重も捨郭とり今江戸の都城の如し扱この章  
の心ハたとハ此の合戦とて城ありんは是環とて

圍で攻戦ふより勝とあへは是全休ハ攻へて天の時  
節を得る事ありあへは風を頼ひて火攻を

りらひ又ハ秋雨ふつとてあへは水  
を死ふけんまのさるる然れども破るこつとて

破るこつとて

破るこつとて

破るこつとて

公孫丑章句下  
孟子の曰く天の時  
地の利より如く不  
如の利ハ人の和

三里之城七里之  
郭環て而して之  
を攻て而して勝不  
夫環て而して之を  
攻てらむと天の時と  
得者有然して  
勝不者ハ是天の時  
地の利より如く不



城高う不非  
池深う不非  
非兵革賢利  
粟多う不非  
是地の利人の和  
如不

故曰域民不以封疆之  
界を以て不國  
之險を以て不  
天下を威するに  
兵革之利を以て  
不道を得る  
者助多し道を

要害堅固なるは城非不高也池非  
天の時ハ地の利ハ如るは城非不高也池非

不深也兵革非不堅利也米粟非不多  
也委而去之是地利不如人和也

故曰域民不以封疆之界固國  
不以山谿之險威天下不以兵革之利

得道者多助失道者寡助  
百姓を國の外へ出さずして國を固守するは山谿河谿を便

利を用るに及ばざるときは道を行かうとするは人帰  
服の心をかくるは人の心を得るは人より力を助る者

失たふ者助寡  
なり

助け寡なるに至  
親戚之を畔く助  
多し之至天下之  
順が天下之順  
之を以て親  
戚之畔故曰  
君子戦う不  
有戦ふハ必ず勝

孟子將王朝を  
と將王人を使て  
来て曰く寡人

○孟子將朝王王使人來曰寡人如就

外戚もくもくは畔くは又助むのさしを之至ハ天下の  
人もかかひは順くは然バ天下の人の帰服して順がは処  
の執がはと以て親戚もくもくは畔くはと攻討ふはんとや  
ささあはるはささかは依て君子の徳ある者ハ人とたはる

孟子將朝王王使人來曰寡人如就



就て見ゆるが如く  
者なる寒疾有  
風と可く不朝  
將朝と視と將識  
不寡人に見ゆる  
と得さ使可乎  
對て曰く不幸  
て而して疾有朝  
と造ると能ふ不

明日出て東郭  
氏と弔と公孫丑  
曰く昔者ハ辭と  
小疾を以て  
今日ハ弔と或者  
不可なり乎曰く  
昔者ハ疾今日愈

之を如何ぞ弔と  
不ん

王人として疾を  
問醫者來孟仲子  
對て曰く昔者王  
命有采薪之憂  
有て朝と造ると  
能ふ不病少  
愈趨て朝と造  
我識不能至や  
否乎數人を使て  
路と要して曰く  
請必らんと歸と無  
して而して朝と  
造れ

見者也。有寒疾不可以風朝。將視朝。不  
識可使寡人得見乎。對曰：不幸而有疾

不能造朝。孟子折之曰：王、何、造、と、云、ふ、め、

其処へ王より使者ありて王の命を傳て曰く寡人  
不造と賢者へ就て見べし如の者なり然るに  
疾有りては醫者いさめてりや風の中ては  
これゆへは他行さるべしと明日ハ朝廷へ出

弔と云ふは弔と云ふは若先生朝へ出ぬ寡人に見  
とを使可なりやとなり孟子使者へ對て曰く不幸  
覺れ亦疾あり明日朝と造と明日日出弔於東

郭氏公孫丑曰昔者辭以病今日弔或  
者不可乎曰昔者疾今日愈如之何不

弔その明の日齊の大夫東郭氏喪事ありて  
弔かぐ他出たり公孫丑の曰く昔者の辭にハ

病ありと今日他人へ弔たり或不可とに  
孟子の曰く昔者ハ疾ありて今日ハ愈ぬをバ  
何之如出て王使人問疾醫來孟仲子對曰

昔者有王命有采薪之憂不能造朝今  
病小愈趨造於朝我不識能至否乎使

數人要於路曰請必無歸而造於朝

そのち王ハ孟子の對を聞めて病中の御問と  
て醫師を使はしむる時ハ孟子他出の後ハ留  
主君の孟仲子といふ者使者に對て曰く昔者王の命  
ありて時ハ采薪なる憂御座して朝廷へ造ると能はざる

存今日ハ小愈ゆへは朝へ趨て造ると  
存し不識かるといふに至らざるやと



已とて得不得

景丑氏よ之て宿

と景子曰く内よ

ハ則ち父子外よ

大倫父子恩を

主と君臣敬と

主とと五王之子

を敬とるを見未

王と敬とる所以

見未

返答をたがうて使者をわづらふ跡を数の人を出し

とハ火を焼と不自由なるやどの疾とらふるなる

不得已而之景丑氏宿焉景子曰内則

父子外則君臣人之大倫也父子主恩

君臣主敬丑見王之敬子也未見所以

敬王也孟子も右孟子子ク出セリ要の人達て

景仲子ク曰く凡そ世に重の家の内してハ父子の

道なるや子とる者ハ父の恩の厚さを主とて臣とる

の君と敬とるを主とて天地の厚さを主とて臣とる

道なる今王より子と敬とるを見らるるのふて子の

王と敬とるを見らるる義と丑ハ景子自ら

各をり

曰悪は何言也齊人無以仁義

與王言者豈以仁義為不美也其心曰

是何足與言仁義也云爾則不敬莫矣

乎是我非堯舜之道不敢以陳於王前

故齊人莫如我敬王也孟子之とて曰く悪

我王を敬とるの弟一なりまづ齊の國中の人仁義

の道と王と語説人としてハたゞ仁義の事と

不義と為してはつらやうなる人ハ心の内よ

此王ハ仁義の事を語らたゞとて思ふがゆへなり

再ハ云ハバ今とて大不敬なり我ハ今までこの語

も堯舜の二帝なるに聖人の道の外ハ王の御

景子曰く否此

とるよ如ハ莫

陳セ不故がゆへ

齊人我王を敬

とるよ如ハ莫

大なるハ莫我堯

舜之道ハ非

ハ敢て以て王の前

曰く悪は何の言

を齊人仁義を

以て王與言者無

豈仁義を以て

美とる不と為其

心よ曰くは何ぞ

與仁義を言

足と再云ハ則

ハ不敬是

大なるハ莫我堯

舜之道ハ非

ハ敢て以て王の前

曰く悪は何の言

を齊人仁義を







故曰ゆへに將小  
大を為すと有ん  
將之君ハ必らむ  
召不所之臣有  
謀と有ん之欲  
其德と尊と  
道と樂と  
の如くたる不與  
よ為と有ん足不

故曰ゆへに湯之伊  
尹於之學す  
而後之と臣と  
故曰ゆへに湯  
桓公之管仲小

於之學す而して  
後之と臣と故  
ゆへに湯不  
霸  
今天下地醜  
德齊一能相  
尚し莫他無  
其教ゆ所と臣  
と好む而  
其教を受  
所と臣と  
好ま不  
湯之伊尹  
桓公之管仲  
其則ハ敢て召不  
管仲且猶不可  
不而を況んや

故將大有為之君  
慢とるの理ありんや

必有所不召之臣。欲有謀焉則就之其

尊德樂道不如是不足與有為也

徳あり賢人を尊敬せざんばあふらばやと妙なる

謀とをも施さんと欲ば則ちさうさう其賢人に就

従がて聞べりかく振舞とハ高邁との儀とハ

さうさうたるに君より徳を尊とび道とをたのむ

にのぞきとて用ひ行なふと行届うと一與と為

益かたし事ハ故湯之於伊尹學焉而後臣

之故不勞而王。桓公之於管仲學焉而

後臣之故不勞而霸。右の訳ゆへに昔者湯王

師範の位ハ尊び事々天下定まりて後臣の位ハ

列なる桓公の管仲を召らむと同一も同きなり之に依て

湯朝 天照皇の五部の賢人をを用りよとのたむと

今天下地醜德齊莫能相尚無他好臣

其所教而不好臣其所受教 互に執らむと

張土地と相尚むと醜くして仁者も其徳齊とむ

とらて天下を従がへ歸服せしむると他の義

とを召抱て臣と好むと教をうけて敬崇べとるの賢徳

位の人と湯之於伊尹。桓公之於管仲則

不敢召管仲且猶不可召而況不為管



仲者乎

湯王之伊尹を相遇うる。桓公の管仲を  
用ひたる。例同く。伊尹ハ

陳臻問曰前日於齊王餽兼金一百

而不受於宋餽七十鎰而受於薛餽五

十鎰而受前日之不受是則今日之受

非也今日之受是則前日之不受非也

夫子必居一於此矣孟子曰皆是也

御人陳臻問て曰く前日齊より幣を奉りて王兼金百  
鎰を下さる。而して受らざる。宋の國より七十鎰を受  
りて又薛にして五十鎰を受けり。前日受らざる。道に  
叶ふ。今日の受らざる。非か。今受らざる。是は前日受らざる。非か。

夫子はつゞまが是れ非なり。一方は居りて受らざる。やと  
孟子は非なり。ハ兩方ともに道に叶はる。とぞ

當在宋也予將有遠行者必以贖辭曰

餽贖予何為不受當在薛也予有戒心

辭曰聞戒故為兵餽之予何為不受

是はかうとら。認み。宋に在りて。予は遠方へ行くとあり。行の  
者ハ贖あるハ礼なり。且贈來る辭。贖とあるハ受へる  
又薛に在りて。孟子を害せんとする者あり。予戒慎の  
故に軍兵を用意せり。薛の君聞召て兵の助。餽の辭  
なり。何為受。若於齊則未有處也。無處而  
餽之。是貨之也。馬有君子而可以貨取  
乎。若齊の國に居りて。時ハ遠行もた。又兵の戒あり。是れ  
若くは處ありとありて。餽は貨と會ひ。君子馬は貨の理あり

若齊於則

餽之是貨之也

馬有君子而可以貨取

乎

若くは處ありとありて。餽は貨と會ひ。君子馬は貨の理あり

若くは處ありとありて。餽は貨と會ひ。君子馬は貨の理あり

管仲為不者乎

陳臻問曰前

日齊於王兼

金一百餽而受不

宋於七十鎰

餽而受

薛於五十鎰

餽而受

前日之受不是

則今日之受

非也

今日之受

是則前日之

不受非也

夫子必居一

於此矣孟子

曰皆是也

宋に在りて當て  
予將遠く行  
くと有んと將行者  
ハ必らんと贖むけ  
以て辭を曰く贖  
ひけ。餽ると予  
何為受不薛  
に在り當て予戒  
心有辭して曰く  
戒を聞故に餽  
兵の為之を餽  
ると予何為受  
不

若齊於則

餽之是貨之也

馬有君子而可以貨取

乎



之餽是之也  
貨者君之貨也  
取可也  
有年  
孟子曰  
平陸謂曰  
其大夫謂曰  
子之戰所持之士  
一日  
失伍  
去人  
否乎  
曰  
三  
待  
不

然則則子之失伍也亦多矣  
凶年饑歲  
子之民老羸  
溝  
壯者  
散  
四方  
之者

幾人曰  
此距心之得也  
所  
非  
曰  
今  
人  
之  
牛  
羊  
受  
而  
求  
者  
有  
則  
抑  
亦  
立  
而  
視  
其  
死  
與  
曰  
此  
則  
距  
心  
之  
罪  
也  
他  
日  
王  
見  
曰

○孟子之平陸謂其大夫曰子之持戟之士一日而三失伍則去之否乎曰不待三

然則子之失伍也亦多矣凶年饑歲子之民老羸轉於溝壑壯者散而之四方者幾千人矣曰此非距心之所得為也

人之牛羊而為之牧之者則必為之求牧與芻矣求牧與芻而不得則反諸其人乎抑亦立而視其死與曰此則距心之罪也

他日見於王曰王之為都者臣知五人焉知其罪



王之都と為者  
臣五人を知其罪  
を知者惟孔距  
心王の為之を  
誦と王の曰く此  
則ハ寡人之罪

孟子曰子之靈丘之辭  
士師を請ハ  
似之其以て言  
可ガ為たり今  
既數月未以  
言可ハ未與  
而不用致  
臣為致して

而して去齊人曰  
蜚龍を為する所  
然則善自為  
小なる所以ハ則  
吾知不  
公都子以て告  
曰吾之を聞り官  
守有者ハ其職と  
得不得ハ則  
本言責有者  
ハ其言を得不  
ハ則ハ去我  
官守無く我  
言責無ハ則  
ち吾進退豈  
綽然として餘裕  
有らんや

者惟孔距心為王誦之王曰此則寡人  
之罪也他日孟子の御誦王の都城を為大夫としてハ  
不佞五人を知り自去り其罪を辨知のハ

○孟子謂蜚龍曰子之辭靈丘而請  
士師似也為其可以言也今既數月矣  
未可以言與孟子齊の大夫蜚龍といハ人ハ謂ハ  
孟子靈丘の役を辭退ありて士師の  
官を請受らるハ一理あり似之ハ士師の官ハ王の  
刑罰の非道あるを諫言とて去りたり今  
あつて六七月の數を経たり 蜚龍諫於王  
而不用致為臣而去齊人曰所以為蜚

龍則善矣所以自為則吾不知也

公都子以告曰吾聞之也有官  
守者不得其職則去有言責者不得其  
言則去我無官守我無言責也則吾  
進退豈不綽然有餘裕哉

孟子曰公都子の言を告ハ孟子の曰く去りて  
公都子ハ其理にあつて善まらざるも  
自去り身の為歟ハ不知く其理にあつて善まらざるも  
公都子ハ其理にあつて善まらざるも  
公都子ハ其理にあつて善まらざるも  
公都子ハ其理にあつて善まらざるも







曰古者棺槨度  
無一中古棺七寸  
稱之自天子達於庶人非直為觀美也  
美を為す非直觀  
後人心を

盡  
得不以悦  
為不可不財無  
レバ以悦  
為可不之得  
財有と為古之人  
皆之を用ゆ吾何  
獨然らん

且化者の比  
土  
を以て庸は親

心  
於て獨り  
校よこと無  
ん乎吾之を聞け  
君子天下を以て  
其親不儉也

沈同其私を以て  
問て曰燕伐可  
與孟子の曰く可  
り子噲人小燕伐  
與あるを得不子  
之燕を子噲受  
有而し子之  
悦るび玉子告不

如何と曰古者棺槨無度中古棺七寸槨

稱之自天子達於庶人非直為觀美也

然後盡於人心孟子説の如く大槨ハ棺槨度

直觀のこゝと義為りてハ誠人の孝行のこゝと心を尽

不得不可以為悦無財不可以

為悦得之為有財古之人皆用之吾何

為獨不然限ありて心より度とを得ん格式の分

悦格式をも得て財宝も有とさハ古より心く皆心のすに用

且比化者

無使土親膚於人心獨無校乎吾聞之

也君子不以天下儉其親且化者の比

也孟子の曰く可り子噲人小燕伐

親親の為るハ物を儉とや

○沈同以其私問曰燕可伐與孟子曰

可子噲不得與人燕子之不得受燕於

子噲有仕於此而子悦之不告於王而

私與之吾子之祿爵夫士也亦無王命

而私受之於子則可乎何以異於是



私小之小吾子之  
祿爵を與へん夫  
士も亦王命無  
く私小之を子小  
受ば則ち可なり  
ん乎何を以て  
是を異からん

齊人燕を伐或ひ  
問く曰く齊伐  
勸めく燕を伐  
と有諸曰く未  
可與と向吾之  
應く曰く可なり

彼然く之を伐  
あり彼如孰と  
以て之を伐可  
曰則ち將之小應  
て曰く天吏為ら  
則ち以て之を伐  
可なり今人を殺  
有或人之を向て  
殺す可なり與  
曰則ち將之小應  
へて曰く可なり  
彼如孰と以て之  
を殺す可なり曰  
則ち將之小應  
へて曰く人土師為  
ハ則ち以て之を  
殺す可なり今燕を

孟子

齊の臣下沈同と曰く者私竊にて孟子へ問て曰く今燕の  
國大し故て大夫の子之ハ君の嗣をさぐらんとして上下相  
和ふ事なり今燕無道なる振舞をばこれを討ても  
宜らんや否とたり孟子對ちやうまらん討べざるの  
不義とらべざるを燕の乱とらざる燕王子賢愚有らば  
大夫子之ハ位を嗣とせん久大夫子之ハ古と云うて曰く  
賢徳の人ハ位を讓て之を嗣とせん例を引んて大  
讓て子ハ傳さうとらざるに國民帰服せしめて大小  
乱を引出き孟子説て曰くたふさる仕官の人ある  
小吾子と曰く王ハ告さして私めさうとらざる之ハ吾子の  
祿爵を與へん王の命令もなかり  
可なりや燕の故何をこの理に異らん

齊人伐燕或  
問曰勸齊伐燕有諸曰未也沈同問燕  
可伐與吾應之曰可彼然而伐之也彼  
如曰孰可以伐之則將應之曰為天吏

則可以伐之今有殺人者或問之曰人  
可殺與則將應之曰可彼如曰孰可以  
殺之則將應之曰為士師則可以殺之  
今以燕伐燕何為勸之哉  
或人孟子に問て曰く先生齊に勸て燕を伐し  
りつらざる沙汰ありつらざる孟子御答にいま  
ふやの事なり前日沈同の問り燕の如く不義の  
乱ハ伐て可なりやととていふその理伐へさるる  
答し彼をのちこれを伐し可なり彼り孰も伐て  
可なりと問ば則ち余が對ちやう天吏たるは伐べし  
べさるるむむ 武王大徳を以て紂王の惡逆を討  
民の苦むを救ふは是天の吏とりふの如き然  
むたふ人を殺し者ある人として此者殺すは  
罪なりやと問て殺すべさるると答しりしと誰ら

孟子

孟子集注



以之燕を伐何為  
之之を勸めん哉

燕人畔王の曰  
吾甚慙孟子小慙

陳賈曰王患  
こと無れ王自ら

仁且智王曰  
惡是何言也曰

周公未之盡  
而況や王乎賈

是仁不仁  
之を使しハ

周公未之盡  
而況や王乎賈

孟子問曰  
周公ハ何人ぞ

曰古の聖  
人也曰管叔を

使て殷を監  
管叔殷を以て

有諸曰然  
曰周公其畔

將之知て而  
之を使し與曰

燕の罪を正さんやと向る士師役の人の正さざるを  
咎むべし今燕の劣る作法もなると齊の軍兵を以て  
燕を伐ぐと何為た  
これを勸めん哉

○燕人畔王曰吾甚慙於孟子  
後燕の人々孟子を以て齊の畔を以て  
齊王の外事孟子に對して慙する

陳賈曰王無患焉王自以為與周公孰

仁且智王曰惡是何言也曰周公使管

叔監殷管叔以殷畔知而使之是不仁

也不知而使之是不智也仁智周公未

之盡也而況於王乎賈請見而解之

大夫陳賈曰王何ゆへ孟子へ患憂なりや王の  
心は古への周公と御自身とハ仁智孰多りとや王の曰く

惡何の言を以て之を殺せり周公始  
陳賈又曰く昔者周公との兄管叔を殷の監しつる

若知むとたうは是智あり不たう況や王乎於てハ臣  
と下臣ゆいて孟子に解する

見孟子問曰周公何人也曰古聖人也

曰使管叔監殷管叔以殷畔也有諸曰  
然曰周公知其將畔而使之與曰不知  
也然則聖人且有過與曰周公弟也管  
叔兄也周公之過不亦宜乎



不然らば則ち聖人も且過ら有與曰周公ハ弟カケル管叔ハ兄カケル周公之過チ亦宜ク不手且古之君子過レバ則ち之を改ム今之君子ハ過レバ則ち之ハ順ガ古之君子其過チ日月之食ノ如ク民皆之を見其更レズ不レ及んで民皆之を仰ク今之君子豈徒之ハ順ガ之の更レズ又從テ之ガ辭ト為ラ

孟子曰臣為臣而歸  
王就見孟子曰前日願見而不可得得侍同朝甚喜今又棄寡人而歸不識可以繼此而得見乎對曰不敢請耳固所願也  
○孟子致為臣而歸  
王就見孟子曰前日願見而不可得得侍同朝甚喜今又棄寡人而歸不識可以繼此而得見乎對曰不敢請耳固所願也  
子過則改之今之君子過則順之古之君子其過也如日月之食民皆見之及其更也民皆仰之今之君子豈徒順之又從而為之辭改之今之君子過失あるハ忽レテ其過失ハ順ガ之とナリ古之君子ハ過失あるハ忽レテ其過失ハ思議メその曇レをのぞきみることナリ更レバ之の明クナルを仰ガル今之君子ハ過ラハ順ガ之の明クナルを仰ガルとシテ辭ト致ラハカガラ

孟子曰臣為臣而歸  
王就見孟子曰前日願見而不可得得侍同朝甚喜今又棄寡人而歸不識可以繼此而得見乎對曰不敢請耳固所願也  
他日王時子小謂て曰我中國ニ授キ孟子小室ト授ケ弟子ト養ヌ萬鍾ト

孟子曰臣為臣而歸  
王就見孟子曰前日願見而不可得得侍同朝甚喜今又棄寡人而歸不識可以繼此而得見乎對曰不敢請耳固所願也  
○孟子致為臣而歸  
王就見孟子曰前日願見而不可得得侍同朝甚喜今又棄寡人而歸不識可以繼此而得見乎對曰不敢請耳固所願也  
子過則改之今之君子過則順之古之君子其過也如日月之食民皆見之及其更也民皆仰之今之君子豈徒順之又從而為之辭改之今之君子過失あるハ忽レテ其過失ハ思議メその曇レをのぞきみることナリ更レバ之の明クナルを仰ガル今之君子ハ過ラハ順ガ之の明クナルを仰ガルとシテ辭ト致ラハカガラ

室養弟子以萬鍾使諸大夫國人皆有











子長者の為小慮  
をりて子思不及  
不子長者を絶  
乎長者子を絶乎

孟子齊を去る尹  
士人小語て曰く王  
之以湯武為可  
不を識不  
則是不明也  
其不可を識て

然して且至るハ則  
ち是澤を干むる  
千里して王小見  
一遇不故小太三  
宿して而して後  
小書を出は何ぞ  
濡滞を去るハ則ち  
茲悦び不  
高子以て告曰く  
夫尹士悪んぞ予  
知ん哉千里して  
王見ゆ是予が  
欲する所也遇不  
故小太豈予が欲  
する所か予已こ  
くを得不也

事一然るに此二人ハ穆公の側ハ賢者ハ尊故  
のなるを忠言を奉ずる穆公の胸中徳を好  
如何薄うんやと心を安んずるにあり  
子思は賢者に親しむ子ハ子為長者慮而不及  
自りてとあり

子思子絶長者乎長者絶子乎  
子長者の為に

○孟子齊を去る尹士語人曰不識王之不  
可以為湯武則是不明也識其不可  
然且至則是干澤也千里而見王不遇

故太三宿而後出書是何濡滞也士  
則茲不悦

孟子齊を去るの時尹士とてる者人小語  
て曰く孟子の性實の湯武王の  
徳不可を識て然も且至ハ是恩澤を去る干  
折る千里して王小見へし遇不故小太三宿  
今畫の病もて三日を去る事ハ何れハ濡滞  
我ハ不悦とあり

高子以て告曰夫尹士  
知ん哉千里して  
王見ゆ是予が  
欲する所也遇不  
故小太豈予が欲  
する所か予已こ  
くを得不也

遇故太豈予所欲哉予不得已也  
御門人

予心を知んや千里を厭して王見ハ是予が  
欲する所か予已こくを得不也

予三



予三宿して書を出  
予が心小於て猶以て  
速く為王庶幾ハ  
之を改めん王如諸  
改めバ則ち必も予と  
反さん夫書を出て  
而して王予と追不  
然して後小浩然  
して歸志有予然  
雖も豈王を舍  
ん哉王由用て善を  
為小足王如予と用  
ハ則ち豈徒齊の民安  
ん天下之民舉安  
一王庶幾ハ之を改  
めん予日ひ小之を望ま

宿而出書於予心猶以為速王庶幾改  
之王如改諸則必反予夫出書而王不  
予追也予然後浩然有歸志予雖然豈  
舍王哉王由足用為善王如用予則豈  
徒齊民安天下之民舉安王庶幾改之  
予日望之予書の宿して三日を経ると心持  
小遼過ると庶幾ハ王の心を翻す  
改めバ定て予を呼反まなるべし而し書を出ても追手  
をくくくくハも然後よりハ浩然と歸志うけり  
然るも元來王の心ハ共善道を行かりし足し人うられバ  
舍かかくをばあろう如我を用る齊の國のとなりて天下  
の民も安ん全ん信し予豈若是小丈夫然  
王の心を改めんとす

予豈是小丈夫の若然  
ん哉其君以諫而  
受不則ち怒悻悻然  
とて其面小見  
去バ則ち日之力を窮  
而して後宿せん哉  
尹士之を聞て曰く  
士誠小人也  
孟子齊を去充虞路  
小問曰く夫子不  
豫の色有若く然  
り前日虞諸以夫  
子小聞曰く君子天  
を怨し不人を尤め

哉諫於其君而不受則怒悻悻然見於  
其面去則窮日之力而後宿哉予かの尹士  
の如く  
見て官録を去るも余も人のごとく利祿ハ貪らん  
詞を急くして我何ぞ是に效んや尹士聞之曰士誠  
小人也尹士の詞を聞て大いに怒りて歸服  
して曰く誠り小人の我等は君子の心知らん  
○孟子去齊充虞路問曰夫子若有不  
豫色然前日虞聞諸夫子曰君子不怨  
天不尤人扱齊を去りて路を御し人充虞問て曰く  
夫子の御顔豫と云ハ不色と云ハ如何なる  
事を前日夫子の御詞君子ハ天を怨し不人を尤め

士誠小人也  
孟子去齊充虞路問曰夫子若有不  
豫色然前日虞聞諸夫子曰君子不怨  
天不尤人



曰彼一時也  
此一時也

五百年ありて必らるる  
王者有て興る其  
間必らるる世の名あり  
者有周由而來七  
百有餘歳其數我  
以てセハ則ち過る  
其時を以て之を考  
ふるハ則ち可なり

夫天未と天下と平  
治せんと欲せ未如  
天下我平治するを  
欲セハ當今之世我

を舎て其誰吾  
何為ぞ不豫せん  
哉

孟子齊を去て休  
居る公孫丑問て曰  
仕へて祿を受不ハ古  
之之道乎

曰非也崇小於  
吾王小見を得る退  
て去志有變を  
を欲せ不故少  
受不也繼で師命  
有以て請可く不  
齊小久しハ我志

色あるの  
理あり  
曰彼一時此一時也  
彼時につひハ  
尋常の事今

此時の事ハ憾愧へる事の重きなり  
五百年必有

王者興其間必有名世者由周而來七

百有餘歳矣以其數則過矣以其時考

之則可矣如何とかなれば古今を考ふハ大凡三百年

堯帝より殷の湯王に至る湯より文王に至る皆五百餘

年なりその間より皋陶伊尹太公望の各名世の徳

考ふれば百年を經し過る天下を取直とせば

未欲平治天下也如欲平治天下當今

之世舎我其誰也吾何為不豫哉

我思ふ天數未り天下を平ふに治るの時節ならざる

用は顔色の不豫色所以と

○孟子太齊居休公孫丑問曰仕而不

受祿古之道乎公孫丑の問はる齊に仕るは時に

曰非也於崇吾得見王退

而有去志不欲變故不受也繼而有師

命不可以請久於齊非我志也

好む非ざる而も子細あり崇りて王を見るとき時已し徳を

好むよの薄きをとりあつる坐を退めひて已り去んと

孟子二  
五百年必有  
王者興其間必有名世者由周而來七  
百有餘歳矣以其數則過矣以其時考  
之則可矣如何とかなれば古今を考ふハ大凡三百年  
堯帝より殷の湯王に至る湯より文王に至る皆五百餘  
年なりその間より皋陶伊尹太公望の各名世の徳  
考ふれば百年を經し過る天下を取直とせば  
未欲平治天下也如欲平治天下當今  
之世舎我其誰也吾何為不豫哉



ふ非ず

滕文公章句上

滕の文公世子為し將小楚小之んと將宋を過て孟子小見ゆ

孟子性ハ善ク道言必ラハ堯舜を稱ス

世子楚自反復孟子小見ゆ孟子の曰乎夫道一而已

師等の命今以て楚を以て受ざるを引継て志來齊久く居ると固小

### 滕文公章句上

滕文公為世子將之楚過宋而見孟子

世子ハ太子ト未ダ世を嗣カサルカウカト楚ト人ト宋を過て孟子の館ヘ入リテ

孟子道性善言必稱堯舜 孟子の御詞常に孟子の御詞常に

世子自楚反復見孟子孟子曰

曰世子疑吾言乎夫道一而已矣

楚ト人ト宋を過て孟子の館ヘ入リテ

孟子道性善言必稱堯舜

世子自楚反復見孟子孟子曰

曰世子疑吾言乎夫道一而已矣

楚ト人ト宋を過て孟子の館ヘ入リテ

孟子道性善言必稱堯舜

世子自楚反復見孟子孟子曰

曰世子疑吾言乎夫道一而已矣

楚ト人ト宋を過て孟子の館ヘ入リテ

孟子道性善言必稱堯舜

世子自楚反復見孟子孟子曰

今滕絶長補短

今滕絶長補短

成觀齊の景公謂

曰彼も丈夫也

我も丈夫也我何そ

彼を畏まん哉顔淵の

曰舜何人ぞ予何

人ぞ為ること有者亦

是の若し公明儀

曰文王我師也周

公豈我を欺むらん

成觀謂齊景公曰彼丈夫也我丈

夫也吾何畏彼哉顔淵曰舜何人也予

何人也有為者亦若是公明儀曰文王

我師也周公豈欺我哉

君子の道小人の道

昔成觀と云ふの齊の景公は謂ふハ彼聖賢も丈夫

なう我も又丈夫なう吾何ぞ彼を畏んや顔淵も又曰く

古への舜帝も何人からんや人は異なりんや亦舜

の如く自ら公明儀も曰く文王ハ我師なりんや

志ざらば誰か文王の如くなくんやとりの理もあらず

聖人周公の言を味ひて行ふ

今滕絶長補短



將五十里也猶可以為善國書曰若藥  
不眩疾瘳不

滕の定公薨じ世子  
然友小謂曰昔  
者孟子嘗我與  
宋小言心小於終  
不忘今不幸  
大故小至孟子使  
孟子小問然友  
後事を行な  
と欲ま

然友鄒小之孟  
子問孟子の曰亦  
善乎親固所自盡也  
喪固小自盡也  
小之曾子の曰生  
事之禮を以て之を祭  
禮を以て之を祭  
可諸侯之禮吾未之  
を學ひ未然り雖も  
吾嘗之を聞  
三年之喪齊疏之服  
飣粥之食天子自庶  
人小達也三代之共

將五十里也猶可以為善國書曰若藥  
不眩疾瘳不  
今滕の國長短を絶補バ大  
抵五十里四方がたり然道  
用善國た書経曰く凡そ藥とつ者ハ病眩  
を治めたることなりハ瘳とつ國を立車  
政道を  
常の懦弱心は充さずんバ能く法令を立て

○滕定公薨世子謂然友曰昔者孟子  
嘗與我言於宋於心終不忘今也不幸  
至於大故吾欲使子問於孟子然後行  
事  
滕の定公薨去りて世子文公その臣然友を仰ぎ  
孟子嘗我と宋の地を御言談のたあり  
今心不忘今我不幸にして大故及ぬ吾子と以て  
孟子へたつ同その後事を行なと父の死まると

大故と然友之鄒問於孟子孟子曰不亦  
善乎親固所自盡也曾子曰生事之  
以禮死葬之以禮祭之以禮可謂孝矣  
諸侯之禮吾未之學也雖然吾嘗聞之  
矣二年之喪齊疏之服飣粥之食自天  
子達於庶人三代之共之  
然友之問に於て  
孟子に問ふるに  
子の曰く世子の心中善く親の喪に固より自  
を盡さざるのなり吾先師曾子の多し親の  
世に存生りたる死去りたる又その祭の禮を  
用てつららとハ父母孝行の終りたるの仰り  
諸侯の  
禮ハ五祀と學びたる事たり然とも聞つるに  
の三年の喪中の間齊疏の衣服と飣粥の食事とハ



然友反命也定て三年之喪を為父兄百官皆不欲せ不日吾宗國魯の先君之行を以て莫吾先君亦之を行ふこと莫子之身小至て而之を反て不可なり且志曰喪祭先祖小從之曰吾之を受る所有

然友小謂て曰吾他日未嘗て學問

セ不好んで馬と馳劔を試今父兄百官我小足不恐ら其大事を盡しこと能ハ不子我為小孟子小問然友復鄒小之孟子小問孟子の曰く然り以て他小求む可く不者也孔子曰く君薨して冢宰小聽粥を歡く面て深墨あり位小即て而して哭し百官有司敢く哀不て莫之小先る也上小好む者有ハ

天子より庶人までおし進み然友反命定為

三年之喪父兄百官皆不欲曰吾宗國

魯先君莫之行吾先君亦莫之行也至

於子之身而反之不可且志曰喪祭從

先祖曰吾有所受之也

然友反命定て三年の喪中を為り一家中の若とも百の

先君の御身に至て之を反て不可なり且

謂然友曰吾他日未嘗學問好馳馬試

劔今也父兄百官不我足也恐其不能

盡於大事子為我問孟子然友復之鄒

問孟子

孟子の曰く然り以て他小求む可く

不者也孔子曰く君薨して冢宰小

聽粥を歡く面て深墨あり位小即

て而して哭し百官有司敢く哀

不て莫之小先る也上小好む者有ハ

德艸也艸尚之風必偃是在世子

孟子曰然不可以他求者也孔子曰君

薨聽於冢宰歡粥面深墨即位而哭百

官有司莫敢不哀先之也上有好者下

必有甚焉者矣君子之德風也小人之

德艸也艸尚之風必偃是在世子

孟子集注 卷之四 梁惠篇 四



下必也馬下必也馬有り其  
者有君子之  
德ハ風小人之德ハ  
草草小之風上  
必らむ是世  
子小在

然友反命世子曰  
然リ是誠小我  
小在五月廬小居  
未命戒有未百官  
族人可謂て知  
曰華小至及  
四方來之之  
觀顔色之戚哭  
泣之哀弔者大  
小悦こへ

滕の文公國を爲む  
るを問孟子の曰く  
民の事ハ緩も可か  
り不詩小云書具爾  
于茅爾宵ハ  
爾爾索爾綯爾亟爾其始  
小其屋小乘其始  
めて百穀を播こ  
民之道爲恒の産  
有者ハ恒の心有恒の  
産無者ハ恒の心無  
苟小恒の心無ハ  
放辟邪侈爲不  
と無罪小陷る  
小及然後之  
從て之を刑是

孟子の曰く然是是事ハ能うるか久事して他人の求  
こたうは聖人も仰せらる今日君の薨去のハ  
事ハ家宰小宰詔て君ハた卷を務らひ自然と面  
淡墨その位に即して哭のとたる百官有司の者これを  
見て哀まるるのかくこれ我身を徴し先ぞ見らる  
ゆらるとて上る人何ぞ御好とあさ下なるのハ  
小人の徳ハ州とり風吹とハ州とりハ  
然友反命世子曰然是誠在我五月居  
廬未有命戒百官族人可謂曰知及至  
葬四方來觀之顔色之戚哭泣之哀弔  
者大悦然友又の身在となりと五月廬ハ  
諸事の命戒もを執らるのとハ百官族人も  
曰く徳と知る人なりと謂曰葬送り至て四方は

來觀て文公の顔色の戚を見らる  
哭泣の体をとり大悦ひとり  
○滕文公問爲國孟子曰民事不可緩  
也詩云晝爾于茅宵爾索綯亟其乘屋  
其始播百穀文公政道の御問か  
晝ハ手て茅をかと宵ハ索をを織てかを出し亟  
屋つくらひをかと來春の始のハハ穀物の種を  
また付す手當を民之爲道也有恒産者有  
恒心無恒産者無恒心苟無恒心放辟  
邪侈無不爲已及陷乎罪然後從而刑  
之是罔民也焉有仁人在位罔民而可

孟子集注 卷之四



民之困窮之焉念仁人位不在於民之用

是故不賢君必恭儉

陽虎曰不仁不富不

夏后氏五十而助周人百畝而徹

為也是故賢君必恭儉禮下取於民有

制前篇に出づる鬼く民ハ産業ある心も義理を失

陽虎曰為富不仁矣取とて制はくふとて

為仁不富矣陽虎も悪人かたきとて

夏后氏五十而助周人百畝而徹

其實皆什一也徹者徹也助者藉也

龍子曰治地莫善於助莫不善於貢貢

者校數歲之中以為常樂歲粒米狼戾

多取之而不為虐則寡取之凶年糞其

田而不足則必取盈焉為民父母使民

盼盼然將終歲勤動不得以養其父母

又稱貸而益之使老樨轉乎溝壑惡在

其為民父母也古ハの賢人龍子とりの人論して

貢之法ハ歲數をふるその中そんくの校敷をかりて

定りのの定敷をかき依てその流さふめて民をさるるむ

も民の虐るるぬ時も常の定めをば取とて寡をたれ理し

龍子曰地を治む

貢於善りし不さ

莫貢者數歲之中

を校ぐ以て常と為

樂歲ハ粒米狼戾多

く之を取て而

て虐を為不則

則ち必む取盈民の

父母と為て民小盼

盼然使將小

終歲勤動以

て其父母と養ふ

とと得ると將又

孟子集注



稱貸て之を益老稚  
を使溝壑小轉ト思  
くんぐ其民の父母為  
小在らん  
夫祿を世ふすハ  
滕固より之を行ふ

詩云我公田雨  
て遂小我私小及ぶ  
惟助公田有と為  
此小由て之を觀れ  
巴周と雖ども亦助  
庠序學校を設け  
為して以て之を教ゆ  
庠者養也校者

然も常の定めは取らざるとハ盈満し取らざるとハ  
勝然も常の定めは取らざるとハ盈満し取らざるとハ  
養育することを得ざるものハ稱貸をなして仁心ハ似れども  
上へ引あぐる元利ハ必竟ハ年貢の上へも益するの  
理より遂に困窮し及んで飢る時ハ老るも穉も溝に轉  
父母とも豈う民の  
夫世祿滕固行之矣

公田遂及我私惟助為有公田由此觀  
之雖周亦助也  
詩經ハ民と上とを親戴して  
謠トバ小曰く大何とを雨と云ふ

設為庠序學校以教  
田にして我君の田地より實のふ  
惟助の法ハ公田より有と云ふ

教也庠者射也夏  
小校と曰般小序と  
曰周小庠と曰學ハ  
則ち三代之を共小  
也皆人倫を明ら  
せる所以より人倫上  
小明小して小民下  
小親し心

王者起ること有バ  
必らば來て法と取  
是を王者の師と為  
詩曰周舊邦其命維  
其命維新也子カめ  
文王之謂也子カめ

之庠者養也校者教也序者射也夏曰  
校殷曰序周曰庠學則三代共之皆所  
以明人倫也人倫明於上小民親於下  
の代ハ學校の名を校とトセリ 校ハ教とハ字の義理  
なり 殷の代ハ序と名づく射の字義にして君の學  
のりて之を射とを主意とハ周ハ庠と名づく庠ハ  
美善のりて之を養育を以て義とハ學問の法ハ  
三代ともに同一と云ふなり 皆人の倫を明らにせよの法なり  
上ハ人倫明らにせよ下ハ  
道ありてよくまことし  
是為王者師也  
詩曰周雖舊邦其命維  
來て法を師とまべ

詩曰周雖舊邦其命維  
來て法を師とまべ



て之を行はる亦以て  
 子之國を新ふせん  
 畢戦を以て井地  
 を向ふ孟子の曰く  
 子之君將小仁政を  
 行へんと將選ひ擇  
 ん而子を使ふ子必  
 らん之を勉めよ夫  
 仁政ハ必らば經界  
 自始まる經界正し  
 不バ井地均し  
 不穀祿平ら  
 不是故暴  
 君汗吏必ず其經  
 界を慢らる經界  
 既に正しければ  
 田を分ち祿と制

**新文王之謂也**子力行之亦以新子之  
詩經周八年舊邦新王至仁政王道行  
**國** 詩經周八年舊邦新王至仁政王道行  
 使畢戦問井地孟子曰子  
 之君將行仁政選擇而使子子必勉之  
 夫仁政必自經界始經界不正井地不  
 均穀祿不平是故暴君汗吏必慢其經  
 界經界既正分田制祿可坐而定也  
均に於て文公又その臣畢戦とわふ者に井地の法を問ひし孟子は云ひて曰く子の主君仁義の政道に志すべし今子を使ひて來るも多くの内は選擇しよの必らざるを得ず  
夫仁政ハ經界を第一とて經界正し

坐して定む可  
 夫滕ハ壤地偏小  
 將君子為ん  
 將野人為ん  
 將君子無くハ野  
 人を治むること莫  
 野人無くハ君子と  
 養ふこと莫  
 請野九一而助  
 國中什一自  
 賦使  
 卿以下必ず圭田  
 有圭田五十畝  
 餘夫二十五畝

夫滕ハ壤地偏小  
 將君子為ん  
 將野人為ん  
 將君子無くハ野  
 人を治むること莫  
 野人無くハ君子と  
 養ふこと莫  
 請野九一而助  
 國中什一自  
 賦使  
 卿以下必ず圭田  
 有圭田五十畝  
 餘夫二十五畝  
**野人無野人莫養君子**  
今滕の國偏小なりと君子となつて  
**將為君子焉將為野人焉無君子莫治**  
今滕の國偏小なりと君子となつて  
**夫滕壤地偏小**  
今滕の國偏小なりと君子となつて  
**請野九一而助國中什一使自賦**  
今滕の國偏小なりと君子となつて  
**卿以下必有圭田圭田五十畝**  
今滕の國偏小なりと君子となつて  
**餘夫二十五畝**  
今滕の國偏小なりと君子となつて

先祖を祭る圭田と  
 餘夫二十五畝  
 一人の  
 定めハ







衣履を拊席を織つむりて食と為

陳良之徒陳相其弟辛與耒耜きを肩かた來自滕小之

曰く君聖人之政をおこなうは亦聖人も願ねがは

くハ聖人の氓まがと為

陳相許行を見てみて

大悦よろこぶ盡つく其學を棄すて而して

て學まなぶ陳相孟子小見みて許行之言ことと

道みち曰く滕の君則すなはち誠まことと小賢君也

然りと雖なも未いまだ道みちを聞き未いまだ賢者けんしや民たみ與あひ耕かして而して

て食たむ糶せう食じき殮らんしてして治ちは今滕小倉廩れん府庫有則すなはち是こゝ

民を厲おしめ以もつて自みづから養やしなはるる也惡にくしんぞ賢けんを得え

孟子の曰く許子必かならず粟あはを種うて而して後のち小食ちひする乎曰く

然しかり許子必ず布ぬいを織つむりて而して後のち小衣ちひ乎曰く否許子

褐へつを衣き許子冠かん乎曰く冠かんを曰く否許子

曰く冠かん素す曰く自みづから織つむ之を與あひ曰く否以もつて粟あは易か之を曰く

曰く冠かん素す曰く自みづから織つむ之を與あひ曰く否以もつて粟あは易か之を曰く

曰く冠かん素す曰く自みづから織つむ之を與あひ曰く否以もつて粟あは易か之を曰く

曰く冠かん素す曰く自みづから織つむ之を與あひ曰く否以もつて粟あは易か之を曰く

楚しよよ滕の國へて文公へ告つぐるハ君の仁心遠とほく

くも聞きゆ何なにとて此國の氓まがとたうて一ツの塵ちりを受う

皆みな褐へつの衣服いふくして履はき拊ふ席せきを織つむりて食物じきぶつを食たむ

陳良之徒陳相與其弟辛負耒耜き而自みづから

宋之滕曰聞君行聖人之政是亦聖人

也願為聖人氓まが陳相陳辛しんとて兄弟けいの

陳相見許行而大悦盡棄其學而學焉

陳相見孟子道許行之言曰滕君則誠

賢君也雖然未聞道也賢者與民並

耕而食糶食殮而治今也滕有倉廩府庫

則是厲民而以自養也惡得賢

陳相しんをみて許行しんの道みちを聞き大悦よろこぶ夫おの

と棄すて孟子小見みて許行之言ことを述のて曰く滕の君ハ誠

賢君けん也雖然未いまだ道みちを聞き未いまだ賢者けんしや與あひ民たみ並ならび

耕かして而して食たむ糶せう食じき殮らんして而して治ちは今滕小倉廩れん府庫有則すなはち是こゝ

孟子の曰く許子必かならず粟あはを種うて而して後のち小食ちひする乎曰く

然しかり許子必ず布ぬいを織つむりて而して後のち小衣ちひ乎曰く否許子

曰く冠かん素す曰く自みづから織つむ之を與あひ曰く否以もつて粟あは易か之を曰く

孟子集注



を冠す曰く素を  
織す曰く自織之  
織與曰く否粟と  
以て之小易曰く  
許子奚為を自織  
織不曰く耕を害  
を曰く許子釜甌  
を以て爨を鐵を  
以て耕を乎曰く然  
り自織之を為與  
曰く否粟を以て  
之易  
粟を以て械器易  
者陶冶を厲  
むと為不陶冶亦其  
械器を以て粟を易  
者豈農夫を厲

許子奚為不自織曰害於耕曰許子以  
釜甌爨以鐵耕乎曰然自為之與曰否  
以粟易之  
孟子曰く許子も定て粟を種て食する  
後衣服をまきり曰く否を許子ハ襦を衣る又問然ハ  
許子ハ冠をまきり曰く冠をなぐる又問穀を冠とまきり  
曰く素質りのを冠とく問自織之を織と曰く  
否と作とまきり粟を以て易なり又問て曰く何ゆへ自織  
織とて爨甌ののて蒸や田地ハ鐵の道具とて耕とて  
釜とて爨甌ののて蒸や田地ハ鐵の道具とて耕とて  
や發て曰く然らう問て曰く自織之の事を為とや  
曰く否と耕作の筋となくのて粟を以てまきり易と

其械器易粟者豈為厲農夫哉且許子  
以粟易械器者不為厲陶冶陶冶亦以  
何不為陶冶舍皆取諸其宮中而用之  
何為紛紛然與百工交易何許子之不  
憚煩曰百工之事固不可耕且為也

子何ぞ陶冶を為  
不舎て皆諸を其  
宮中取而して  
之を用ゆ何為ぞ  
紛紛然とて百  
工與交易も何ぞ  
許子之煩を憚か  
ら不曰く百工之  
事固より耕して  
且為可う不

然らば則ち天下  
を治むも獨耕  
且為可けん與  
大人之事有小人

何に於て子子爾  
のハあひまひとて農人ハ粟を以て米  
と易を陶冶師の毎処の不自由を助け  
へ道具をとりて粟に易とて農夫も陶冶師もたがひにふ  
も心を厲むとなり本も陶冶農職一所にありのハ  
あまぎ一処にちるぞたがひハ許子何ゆへ陶冶を為とや  
吾宮中へ入りよせて之を用ゆるハ紛紛然となり何ゆへ  
その中へ交易をなまきり煩とてを憚らるやとらるハ  
陳相あまぎて曰く然らう耕ハ精出りのハ  
固より百工の事ハ為べうとらる

然則治天下  
獨可耕且為與有大人之事有小人







注ぎ然して後小  
中國得て食も  
可し是時小當つ  
て禹外八年三た  
び其門を過て入不  
耕へん欲もく  
雖も得ん乎

后稷民小稼穡  
を教へ五穀を樹藝  
五穀熟して民  
人育る人之道有

飽食煖衣逸居  
て教へ無きハ則ち  
禽獸に近し聖人  
之を憂ふること有  
契を司徒と為  
教ゆふ人倫を以  
て也父子親有君  
臣義有夫婦別有  
長幼序有朋友信  
有放勲の曰く之を  
勞し之を來し  
之を匡し之を直  
し之を輔け之を  
翼く自ら之を  
得せ使又從て之  
を振徳も聖人之  
民を憂ふること此

昔者堯帝の時天下未だ小平定ならず洪水横流して天下に汜濫なり草木ハ暢茂禽獸ハ人間に偏りやうなり國のやん中も鳥の足跡あるやん時帝唐堯これを憂ふの賢徳ありとを舜を引挙て仁徳を以て敷治し舜も賢人とよばるる益を引あげて火を掌り心則山澤を然して是を焚くやうにして禽獸次第にどろろり逃さかくる禹ハ水道を掌り九河のちり疏し濟類の川をも翕て海のく注流を書經に注ぎ如くそれより海に注ぎ汝水漢水をも決て淮泗のが排き楚より江に注ぎなぐりやうり而後小國中安樂を得て食事をもちせりなり是時禹ハ民をとりてかくふるまひしゆハ八年外ありて吾人の門を過るとも見るがうにして入て對面も能くし中く人を治る者ハ耕作と欲とりしを得る也

后稷教民稼穡樹藝五穀五穀熟而民人育人之道有也飽食煖衣逸居而無教則近於禽獸聖人有憂之使契為司徒教以人倫父子有親君臣有義夫婦有別長幼有序朋友有信放勲曰勞之來之匡之直之輔之翼之使自得之又從而振徳之聖人之憂民如此而暇耕乎

居而無教則近於禽獸聖人有憂之使契為司徒教以人倫父子有親君臣有義夫婦有別長幼有序朋友有信放勲曰勞之來之匡之直之輔之翼之使自得之又從而振徳之聖人之憂民如此而暇耕乎



の如し而して耕  
ま小暇あらん乎

堯舜を得不得  
禹皋陶を得不得  
以て己が憂と為舜  
夫百畝を易不  
以て己が憂と為者  
ハ農夫也  
人小分つ小財と以  
て之を惠と謂  
人小教ゆる小善と

以て之を忠と  
謂天下の為人  
を得之を仁と謂  
是故小天下を以て  
人小與あるハ易く  
天下の為人を得  
こと難し  
孔子曰く大なる  
哉堯之君為惟天  
大ひたるし為惟  
堯之小則とら蕩  
蕩乎とて民能  
君とること無一君  
ある哉舜出魏  
乎とて天下を  
有つて與つて堯  
舜之天下を治る

契とりの賢人たるを以て司徒の官として字の道  
人の倫を教をせり父子の親愛君臣の義理夫婦の  
分別長上短下の序朋友の信の五つを教をせり放勳  
も仰あつて我天下を治るにハ万民を勞て來服する  
ハこれを懐け邪をなかるハ正直一人を輔てこれを  
翼て道を行さハ一む自冬その性つるに日月あり得  
事と憂愛するゆへ中々耕作するに暇あらんや  
聖人かやうの民の

堯以不得舜為己憂舜以不得禹皋陶  
為己憂夫以百畝之不易為己憂者農  
夫也 堯帝ハ聖人舜を得たハ内ハ何とぞ徳ある人を  
民の為に求めり人として心憂愛するゆへハ  
百畝の田地の出來不出來ると易くするの事を憂愛とする  
ハ農人の 分人以財謂之惠教人以善謂之

忠為天下得人者謂之仁是故以天下  
與人易為天下得人難 人財を人から施す  
是故天下を人譲あつるハ易くハ心勿し  
りつるを天下の民の為に徳ある人を奉るハ  
難し  
孔子曰大哉堯之為君惟天為大  
惟堯則之蕩蕩乎民無能名焉君哉  
舜也魏巍乎有天下而不與焉堯舜  
之治天下豈無所用其心哉亦不用於  
耕耳 聖人も堯の徳を稱して惟天の  
大なるにこれ則して堯帝の徳を  
五十四 玉藻集官載



豈其心と用ゆる所を  
 らん哉亦耕へしを  
 用ひざる耶  
 吾聞夏を用て夷  
 と變する者未夷  
 變する者未夷  
 陳良楚の産也周  
 公仲尼之道を悦  
 び北中國の學ひ北  
 方之學者未之小  
 先んずること或能  
 宋彼ハ所謂豪傑之  
 士子之兄弟事  
 へて數十年師死  
 て遂小之不信く

蕩蕩乎御徳なるゆへ人民各付やうもろくとを舜帝も  
 うと君と稱まほしとて誠し魏山魏乎して天下をたりち  
 うふる富貴の心して少くも徳を尊ぶの天下を治す  
 小心を用ざる処たり然るも自ら耕とつ事ハ用さざる  
 吾聞用夏變夷者未聞變於夷者也  
 陳良楚産也悦周公仲尼之道北學於  
 中國北方之學者未能或之先也彼所  
 謂豪傑之士也子之兄弟事之數十年  
 師死而遂倍之五今テ人といふハ一と耳にも  
 いハあれと夏が夷に變せらるる事と聞むるかの師の陳良  
 ハ楚の産る中國にてハかるれども周公孔子の道と悦びりて  
 北の方中國へ來て學問をなせし中々北方中國の  
 學者も之より先と能はざ彼ハまことに世に所謂ありがごと

昔者孔子没三年  
 年之外門人任を治  
 め將小歸らんと將  
 入て子貢小揖を相  
 嚮て哭を失聲して  
 然して後小歸る子  
 貢反て室を場小  
 築一獨居て三年  
 然して後小歸る他日  
 子夏子張子游有  
 若聖人小似とを  
 以て孔子小事ふ  
 所を以て之小事へ  
 んと欲も曾子小疆  
 曾子の曰く不可

豪傑の士なり然るに子の兄弟を師と事して數  
 十年たりるに一旦之を倍さ却て夷の者に變せらるる事ハ  
 昔者孔子没三年之外門人治任  
 將歸入揖於子貢相嚮而哭皆失聲然  
 後歸子貢反築室於場獨居三年然後  
 歸他日子夏子張子游以有若似聖人  
 欲以所事孔子事之疆曾子曰不  
 可江漢以濯之秋陽以暴之皜皜乎不  
 可尚已明師を尊ぶと例を説聞し聖人  
 任を以て治て各の國へ歸りて中より子貢ハ聖人ト至  
 て親を以て外への門人トす子貢の廬へ入て相嚮てはかく

五二五 王漢集會



江漢以て之を濯ひ秋陽以て之を暴ひ臨臨乎と

今南蠻馱舌之人先王之道小非也子之師小信ひて之小學ぶ亦曾子

小異なり

吾聞幽谷を出て喬木小遷る者未喬木を下つて幽谷小入者

魯頌小曰戎狄是膺荆舒是懲也周公方且之膺子是を學亦善

許子之道小從ハ則ち市の賈ひ貳

天泣失声そのうちちの帰る子貢ハ猶去るに忍びび一室を壇場に築てわく留居と三年とて六年なり然後歸りて他日子夏子遊子張の輩より有若の容貌ハより聖人の事をもとむる有若の容貌ハより聖人の事をもとむる有若の容貌ハより聖人の事をもとむる有若の容貌ハより

今也南蠻馱舌之人非先王之道子倍子之師而學之亦異於曾子矣

未聞下喬木而入於幽谷者 吾聞出於幽谷遷于喬木者

是膺荆舒是懲周公方且膺之子是之

學亦為不善變矣 從許子之



不國中偽り  
無五尺之童を使  
市小適と雖も  
を欺むくこと或  
と莫布帛の長短  
同ト六則ち賈相  
若ん麻縷絲絮輕  
重同ト八則ち賈  
相若ん五穀多寡  
同トくバ則ち賈相  
若ん屨の大小同  
トくバ則ち賈相若  
ん

曰く夫物之齊し  
く不物之情也

或ハ倍蓰一或ハ  
相什伯一或ハ相  
萬と子比し之  
を同トふ是天下  
を亂る也巨屨小  
屨賈を同おすセ  
人豈之を為哉許  
子之道不從ハ相  
率て偽りを為者  
也悪らんぞ能國  
家を治めん

墨者夷之徐辟小  
因て孟子小見ゆ  
を求む孟子の曰く  
吾固より見を

道則市賈不貳國中無偽雖使五尺之  
童適市莫之或欺布帛長短同則賈相  
若麻縷絲絮輕重同則賈相若五穀多  
寡同則賈相若屨大小同則賈相若

陳相の如し其の法市井の賈の賈一やふして貳さし  
と如此その法市井の賈の賈一やふして貳さし  
欺る事なりんやと云ふ布帛も長短同ト  
やうな事なりんやと云ふ麻縷絲絮もその  
品はたがごとく輕と重と同トかふその賈若か  
と云ふ何の品も同トかふ其の賈若か  
すことなる事なり許行の義惡を論まると  
長短輕重も賈を同ト  
曰夫物之不齊物之

情也或相倍蓰或相什伯或相千萬子

比而同之是亂天下也巨屨小屨同賈人

豈為之哉從許子之道相率而為偽者也

惡能治國家

孟子の辨りて曰くこれ物の  
各々物の情なり之れ依て同トなる物も賈ハ十倍  
もあつ又五蓰なるものありちと十百千萬の違あふ  
然るに子比なして同トとせば天下の定法を亂とつあ  
巨屨小屨手の精粗ぬを為さしてやうへのよりやをも  
相率に偽をなす者なりと云ふ惡り國を治るの理なり

墨者夷之因徐辟而求見孟子孟子

曰吾固願見今吾尚病病愈我且往見



願ふ今吾尚病病

ひ愈て我且往て

見夷子來不

他日又孟子小見ゆ

るを求む孟子の曰く

吾今以て見可直

あつ不バ則ち道見

いと不我且之を直

小せん吾聞夷子ハ

墨者墨之喪を

治ゆる薄さを以て

其道を為夷子以て

天下と易んと思豈以

て是よ非むと為

而して責び不らん

然れども夷子其親を

葬ふること厚し則

ち是賤し所以親

小事なる也

徐子以て夷子小告

く夷子曰く儒者

之道古く之人赤

子を保むるが若

此言何の謂を之則

ち以て愛小差等

毎と為施こ親

由始まる徐子以て

孟子小告く孟子の

夷子不來

孟子曰吾今則可以見矣不直則道不

見我且直之吾聞夷子墨者墨之治喪

也以薄為其道也夷子思以易天下豈

以為非是而不貴也然而夷子葬其親

厚則是所以所賤事親也

對面と直とを言ふなり

吾試と直とを言ふなり

然ハ其師墨子ハ親の喪を治ゆること薄いと道と然に

夷子ハ厚く喪を執行する元來夷子の心ハ墨子の道と

是と云ハ行て行らんや天下の風をも我道りかんと

云らる然るに今親の喪を厚くするハ師の賤い

と云らるて親らうかと

徐子以告夷子夷子

曰儒者之道古之人若保赤子此言何

謂也之則以為愛無差等施由親始徐

子以告孟子孟子曰夫夷子信以為人

之親其兄之子為若親其鄰之赤子乎

彼有取爾也赤子匍匐將入井非赤子

之罪也且天之生物也使之一本而夷

子二本故也

徐子右の言を以て夷之告く夷子

云夫ありて書經の語を引いてらる儒者

五十八 玉藻集舎齋

五十九



荀勗曰將小井  
罪小非也且天之  
物を生ずる之を使  
本とツと夷子本と  
ニツふす故也

蓋一上世嘗て其  
親を葬むる不者  
有其親死すまば  
則ち舉て之を瘞  
小委他日之を過  
狐狸之を食

蠅蚋姑之を嘬其  
類此はるこ有暇  
して視不夫此も  
人為小此す小非  
ず中心面目小達  
と蓋一歸て藁裡  
を反し而して之を掩  
之を掩誠小是也則  
ち孝子仁人之其  
親を掩亦必らば  
道有

徐子以て夷子小告  
く夷子憮然  
て為問小曰之よ  
命も

の道も親愛との道ありて我師の道も親疏の分  
ちさにあらず書經の民を愛するの心も父母の子を愛  
するが如しとあり此言ハ何の謂ぞや親を愛するは他人  
の親とも愛まざるなりそれと差等あるべからず吾親と  
始めとするの吾厚く親を葬むるは此意なり徐子  
まことの言を孟子へ告ぐれば孟子之を判断して曰くかの  
夷子の以為ハ吾兄の子を愛するの心も同じと  
自身の道へ取用する有りて再び一のなり然るも書經の  
語ハ万民愚知して法を犯して罪にあふハ赤子の害にあつて  
悟りて井の中へ落らんともなう如くなるた大と一詞なり  
且も天の物を生ずるハ本一つとして二ツある理なり人  
々のハ父母を愛するより段々差の等なりて厚きより  
薄き及び本より末より及ぶさとの蓋上世嘗て有不  
葬其親者其親死則舉而委之於瘞他  
日過之狐狸食之蠅蚋姑嘬之其類有

泚腴而不視夫泚也非為人泚中心達  
於面目蓋歸反藁裡而掩之掩之誠是  
也則孝子仁人之掩其親亦必有道矣  
孟子又説ふハ夷子の親を厚くするは實ハ道なり  
とら證據をもちさうゆ遂に彼を正道に服せしむる所以之  
蓋上世葬の礼を時親の死する事ありて瘞へ委する  
他日その地を過て見ると狐狸蠅蚋姑鳥の食嘬るも  
して居たりたり子たるのまねを見てハ如何なる者も其  
地ふくみて類は泚をなかりし眼も見るも真に  
見事あるハ此も心根りかけの事なり  
かく誠し心中より面目に達する事なり依て家に  
かつ藁裡をくら覆てその尸を掩籠て歸る  
孝子仁心の人の心してハ本より道の重きと処るなり  
以告夷子夷子憮然為問曰命之矣



徐子右孟子の譲りぬれを夷子に告ぐは夷子爲同感心をなして憮然として曰やハ誠に命の重きを知りて

### 滕文公章句下

陳代曰不見諸侯宜若小然今一見之

大則以王小則以霸且志曰枉尺而直

尋宜若可爲也此時孟子天下の諸侯に聖人の

理を以て君に自ら君の理かたを以て

亡女に諸侯の礼の薄きもの招くこと

人陳代自ら若く用ひらるる大ひるを王者の

大道を天下の行ふ小なるは霸者となりて

も志して曰く一尺の物を柱てなりとも尋のりのを直く小

孟子の曰く昔齊の景公田を虞人

を招く小旗を以て

と至り不將小之

を殺さんと將志士

溝壑小在を忘れ

不勇士其元を喪

を忘れ孔子笑

を取其招非

て往不を取如其招

と待不て往ハ

何ぞ哉

滕文公章句下

陳代曰諸侯を見

不直小然今一

若く然り今一

ひ之を見バ大

則ち以て王

ハ則ち以て霸

且志小曰尺を枉

て而して尋を直

ふと宜く爲

可き若

孟子の曰く昔

齊の景公田を虞人

を招く小旗を以て

と至り不將小之

を殺さんと將志士

溝壑小在を忘れ

不勇士其元を喪

を忘れ孔子笑

を取其招非

て往不を取如其招

孟子の曰く昔

齊の景公田を

虞人

を招く小旗を

以て

と至り不將小之

を殺さんと將志士

溝壑小在を忘れ

不勇士其元を喪

を忘れ孔子笑

を取其招非

て往不を取如其招

と待不て往ハ

何ぞ哉

孟子の曰く昔

齊の景公田を

虞人

を招く小旗を

以て

と至り不將小之

を殺さんと將志士

溝壑小在を忘れ

不勇士其元を喪

を忘れ孔子笑

を取其招非

て往不を取如其招

と待不て往ハ

何ぞ哉

孟子の曰く昔

齊の景公田を

虞人

を招く小旗を

以て

と至り不將小之

を殺さんと將志士

溝壑小在を忘れ

不勇士其元を喪

を忘れ孔子笑

を取其招非

て往不を取如其招

と待不て往ハ

何ぞ哉

孟子の曰く昔

齊の景公田を

虞人

を招く小旗を

以て

と至り不將小之

を殺さんと將志士

溝壑小在を忘れ

不勇士其元を喪

を忘れ孔子笑

を取其招非

て往不を取如其招

と待不て往ハ

何ぞ哉

孟子の曰く昔

齊の景公田を

虞人

を招く小旗を

以て

と至り不將小之

を殺さんと將志士

溝壑小在を忘れ

不勇士其元を喪

を忘れ孔子笑

を取其招非

て往不を取如其招

と待不て往ハ

何ぞ哉

孟子の曰く昔

齊の景公田を

虞人

を招く小旗を

以て

と至り不將小之

を殺さんと將志士

溝壑小在を忘れ

不勇士其元を喪

を忘れ孔子笑

を取其招非

て往不を取如其招

と待不て往ハ

何ぞ哉

孟子の曰く昔

齊の景公田を

虞人

を招く小旗を

以て

と至り不將小之

を殺さんと將志士

溝壑小在を忘れ

不勇士其元を喪

を忘れ孔子笑

を取其招非

て往不を取如其招

と待不て往ハ

何ぞ哉

孟子の曰く昔

齊の景公田を

虞人

を招く小旗を

以て

と至り不將小之

を殺さんと將志士

溝壑小在を忘れ

不勇士其元を喪

を忘れ孔子笑

を取其招非

て往不を取如其招

と待不て往ハ

何ぞ哉

孟子の曰く昔

齊の景公田を

虞人

を招く小旗を

以て

と至り不將小之

を殺さんと將志士

溝壑小在を忘れ

不勇士其元を喪

を忘れ孔子笑

を取其招非

て往不を取如其招

と待不て往ハ

何ぞ哉

孟子の曰く昔

齊の景公田を

虞人

を招く小旗を

以て

と至り不將小之

を殺さんと將志士

溝壑小在を忘れ

不勇士其元を喪

を忘れ孔子笑

を取其招非

て往不を取如其招

と待不て往ハ

何ぞ哉

孟子の曰く昔

齊の景公田を

虞人

を招く小旗を

以て

と至り不將小之

を殺さんと將志士

溝壑小在を忘れ

不勇士其元を喪

を忘れ孔子笑

を取其招非

て往不を取如其招

と待不て往ハ

何ぞ哉

孟子の曰く昔

齊の景公田を

虞人

を招く小旗を

以て

と至り不將小之

を殺さんと將志士

溝壑小在を忘れ

不勇士其元を喪

を忘れ孔子笑

を取其招非

て往不を取如其招

と待不て往ハ

何ぞ哉

孟子の曰く昔

齊の景公田を

虞人

を招く小旗を

以て

と至り不將小之

を殺さんと將志士

溝壑小在を忘れ

不勇士其元を喪

を忘れ孔子笑

を取其招非

て往不を取如其招

且夫

且夫尺を枉て而

て尋と直まる者利

諸侯

且夫



を以て言如利を以て  
てセハ則ち尋を枉  
て尺を直せ而して  
利亦為可けん與

昔者趙簡子王良  
小嬖矣與乘使終  
日而一禽を獲不  
璧矣反命曰曰  
天下之賤工也或  
以て王良を告  
良曰請之を復  
せ彊て而して後  
小可一朝を獲  
禽を獲り璧矣  
反命して曰天下

之良工也簡子曰  
我女ト與乘と掌  
く良不可曰く吾之  
が為小範して我馳  
驅を獲不之が為不  
詭遇すも一朝小  
詩云其馳を失  
破如我小人與  
乘を貫不請辭  
せん

枉尺而直尋者以利言也如以利則枉  
尋直尺而利亦可為與且物を枉て尋の物

昔者趙簡子使王良與嬖奚乘  
終日而不獲一禽利欲心をも試み利を以て

璧奚反命曰天下之  
賤工也或以告王良良曰請復之彊而

後可一朝而獲十禽試み利を以て

之良工也簡子曰我使掌與女乘謂王

良良不可曰吾為之範我馳驅終日不

獲一為之詭遇一朝而獲十詩云不失

其馳舍矢如破我不貫與小人乘請辭

昔者晉の大夫趙簡子の臣嬖奚とらあり御者王  
良とを多て獵をなせし御馬をつらやくなり獵を  
なせし終日の間一つの禽をも獲ず嬖奚君へ反命  
あげて曰く王良ハ天下の賤工なりとぞ或人とのと王良に  
語るも王良曰く去りて何とぞ君に請て復御とせし  
て試みに乘せしを彊糸ひて可くも今度一朝に十羽  
の禽を獲りたるの慶ハ良工なりとせし大夫趙簡子  
より命じて吾撃にそのが馬中くを掌しめしとらり  
王良不可して曰く吾馬術の範を守て馳驅せん一つの  
禽をも得ずハ法を重とせしとらり法を守らる  
して詭遇をせし時一朝一禽を獲らざらん心あり  
者ハ法を尊崇べしなり詩經も馳法を失らるる  
べし矢の執力のく作を破らんとしとらり  
小人の輩と馬に乘の法ハ貫らんとしとらり  
辭退を請















嫌約之言を待不  
穴隙を鑽て相窺  
ひ牆を踰て相從  
ふ則ち父母國人皆  
之を賤しむ古  
之人未嘗て仕  
之を欲せず  
あり未又其道  
不を惡む其道  
由不して而  
往者穴隙を鑽  
與之類也

彭更問曰後  
車數十乘從者  
數百人以て諸侯  
傳食を以て  
泰不乎孟子曰  
其道非ざれば  
則ち一簞の食  
人を受可う不  
其道の如く人  
はら舜堯之天下  
を受も以て泰と  
為不子以て泰と  
為乎  
曰く否士事無  
て食するハ不可  
なり

心人皆有之未待父母之命媒妁之言  
鑽穴隙相窺踰牆相從則父母國人皆  
賤之古之人未嘗不欲仕也又惡不由  
其道不由其道而往者與鑽穴隙之類  
也  
孟子の御答し人おの願ふ其道に依  
りてハ叶はざることをいふれ親の心して  
生てハその為に内室の早くハ事願ふ  
ハその為早く家せんことを願ふハ女子  
今列士ハ己が為主君の人事を願ふ同  
さなりと父母の命もなく媒妁もなく穴  
隙を窺て  
壁を鑽牆を踰て相從とハ父母の命なく  
の人も賤むなり古の人仕官を欲し  
由してハ惡む道由ハ  
かの穴隙を窺ふの類なり

○彭更問曰後車數十乘從者數百人  
以傳食於諸侯不以泰乎孟子曰非其  
道則一簞食不可受於人如其道則舜  
受堯之天下不以爲泰子以爲泰乎  
門人彭更の問はるる孟子諸方を  
人衆同く車にのりて數十乘なり又從者も數百人  
なり夫の如く大勢なるハ諸侯の食應あり  
ヤ孟子は曰く非道とにあらば一簞の食も  
人を受ハ耻なり如く道にあらば一簞の食も  
御位を受一舜も曰く否士無事而食不可  
也



曰く子功と通ト  
事と易羨と以て  
足不を補ふ不  
則ハち農は餘粟  
有女は餘布有  
子如之と通セハ  
則ハ梓匠輪輿  
皆食らふと子ハ  
得此よ人有入てハ  
則ハ孝なる出  
先王之道と守と  
以て後之學者と  
待而して食らふ  
を子よ得不子  
何ぞ梓匠輪輿と  
尊んで仁義と

為者を輕む哉  
曰く梓匠輪輿其  
志を以て食と求  
んと將君子之道と為  
其志ぞ亦將  
以て食を求めん  
と辨與曰く子何  
ぞ其志と以て  
為哉其子よ功  
有ハ食可して之  
を食且子志  
よ食乎功よ食  
し乎曰く志は  
よ食し

曰子不通功易事以羨補不足則農有  
餘粟女有餘布子如通之則梓匠輪輿  
皆得食於子於此有人焉入則孝出則  
悌守先王之道以待後之學者而不得  
食於子子何尊梓匠輪輿而輕為仁義  
者哉今子のりぬ如さう違ちりたふハりの通用と  
りやりのハ羨をさふのと不足なる処へや替はむ  
小事をさう易てその功ありて通用さうとなり若  
その相援とのなくハ農の家よりハ粟のさうとさ処る置  
どらなく羨ぶべし女もさうさうハ布ハ金さうに餘  
べとさう然ハ毎益かちり吾子りそのとく通用  
しくハ是ハ限と梓匠又ハ輪輿なとも吾子にやとハ  
て口糊食物とも吾子よりさうい得べさう又たさ

曰梓匠輪輿其志將以求食也  
君子之為道也其志亦將以求食與曰  
子何以其志為哉其有功於子可食而  
食之矣且子食志乎食功乎曰食志  
彭更又曰梓匠輪輿ハ始より其志利を求め  
食を求めんとハ君子の道りても食を求めりとの志  
かろやわらやとなり孟子答りぬハ子何ゆへ志の  
処りて論さうやそのの執り功の有毎りてと食と



曰人此有瓦  
 其志將以  
 食と求りて  
 則ち子之食  
 然らば則ち  
 非功食也  
 非功食也

萬章問曰宋  
 小國なり今  
 王政を行  
 將齊楚惡  
 之を伐ば  
 如何

孟子の曰湯  
 居葛與鄰  
 葛伯放す  
 ら不湯人  
 を問て曰  
 何為不  
 犠牲供無  
 湯之牛羊  
 遺ら  
 使葛伯之  
 又祀ら不  
 又人使之  
 曰何為祀  
 不曰以て  
 供盛  
 の衆を使  
 往て之  
 が為耕

吾子の為に  
 得たるなり  
 吾子の志  
 曰有人於

此毀瓦畫  
 其志將以  
 求食也則  
 子食

之乎曰否  
 曰然則子  
 非食志也  
 食功也

萬章問曰  
 宋小國也  
 今將行王  
 政齊

楚惡而伐  
 之則如何  
 如何

孟子曰湯  
 居亳與葛  
 為鄰葛伯  
 放而不  
 祀湯使人  
 問之曰何  
 為不祀曰  
 無以供  
 犠牲也湯  
 使遺之牛  
 羊葛伯食  
 之又  
 不祀湯又  
 使人問之  
 曰何為不  
 祀曰無  
 以供粢盛  
 也湯使亳  
 衆往為之  
 耕

孟子對曰  
 湯王の諸  
 侯として  
 亳の都に  
 居たり  
 葛伯放  
 して已先  
 祖の祀を  
 為さず湯  
 王これを  
 憂に  
 ちて人  
 問て曰何  
 ゆり祀  
 葛伯  
 犠牲を  
 遺ら  
 使  
 之を  
 耕



老弱ハ食と饋る  
葛伯其民を率  
て其酒食黍稻  
有者を要して  
之を奪授不者  
之と殺も童子有  
黍肉と以て餉を殺  
して之を奪書  
曰く葛伯餉  
仇と此之謂る

其是童子と殺  
が為りて征ま

事なる然る葛伯の贈りめと自ら食して  
紀を湯王も同て曰く何故に紀とるや又答て  
曰く繁盛に供ゆる黍稻を殺しめ湯又  
毫の衆人を連れてかの夷の田地を耕しめ湯  
老弱饋食葛伯率其民要其有酒食黍  
稻者奪之不授者殺之有童子以黍肉  
餉殺而奪之書曰葛伯仇餉此之謂也  
血氣の若者ハ田地を耕しめ老弱者弱く死  
者ハその食事行厨を持て遺し然る葛伯は  
民のあまを率つて其酒黍稻等の食りを持  
りのを要とめて奪る授るハこれを殺しては  
中にも憐なるハ人の童子黍の飯と肉とを餉  
を切害して奪る是を書記して葛伯の  
仇とせし惡逆ハ此童子と  
為其殺是童子而征

四海之内皆曰天下  
富も非も匹  
夫匹婦の為に讎  
を復するは  
湯始めて征も葛  
自載む十一征して  
天下に敵無東面  
して征され西夷  
怨も南面して征  
され北狄怨も甲  
奚為我をも後小  
と民之之を望  
大旱之雨を望  
若し市は歸する  
者止弗芸する  
者変せず其君  
誅して其民を

之四海之内皆曰非富天下也為匹夫  
匹婦復讎也湯始征自葛載十一征而無敵於天下  
東面而征西夷怨南面而征北狄怨曰  
奚為後我民之望王之若大旱之望雨也  
歸市者弗止芸者不變誅其君弔其民  
如時雨降民大悦書曰後我后后來其  
無訶御代となりし始ての征伐は來葛伯の事







王政を行さば不  
再云苟王政と  
行さば四海之内  
皆首を擧げて之を  
望んで君と為る  
と雖も何ぞ畏  
孟子戴不勝小  
謂て曰く子孟王  
之善を欲する與  
我明らうら子小  
告楚の大夫此は有  
其子之齊語を  
欲し則ち齊人  
傳へし使諸楚人  
を傳へし使人諸

齊人を使之を傳  
とて曰くの齊人之  
傳へし衆の楚人  
之を咻むくセバ  
日小擡て其齊を  
求む雖も得ず不  
引て之を莊嶽之  
間置て數年時  
に擡て其楚を  
いと求むと雖も  
亦得可う不

子薛居州善士  
なりと謂之と王  
の所は居使王之  
所は在者長幼  
卑尊比自薛居

かの殘賊のものと取らんと惡人を殺し叛人のことを代りて  
武威を張らうとハ中く湯王に比てハやうやく光  
その上に不行王政云爾苟行王政四海  
之内皆擧首而望之欲以為君齊楚雖  
大何畏焉益かたうん人苟之を行らう天下四海皆  
首を擧げて行らうと君と仰んと明らう  
たと兩國大なりとも畏らうとハ有らうとたり

○孟子謂戴不勝曰子欲子之王之善  
與我明告子有楚大夫於此欲其子之  
齊語也則使齊人傳諸使楚人傳諸曰  
使齊人傳之曰一齊人傳之衆楚人咻

之雖曰擡而求其齊也不可矣引而  
置之莊嶽之間數年雖曰擡而求其楚  
亦不可得矣孟子子宋の臣戴不勝といふ語りや  
吾子主君の善心を終ぐい欲するや  
我明らうに其道を告ぐ久べうと楚國の太子に  
齊の語を習ふらにハ齊より人を抱ゆるに如く然に入  
の齊人を置て傍らる楚の言語咻むと時ハ如何に  
その子を擡てさうらうと功を得ると不可なり夫  
よりハ齊の街里のサ壯嶽といふ所なを置て數年の月  
日を送らばそれこそ又楚の語をいととひと求めても  
や齊の風にならう 子謂薛居州善士也使之  
居於王所在於王所者長幼卑尊皆薛  
居州也王誰與為不善在王所者長幼



州は王誰と與ふ不善と爲す所の在者長幼卑尊皆薛居州非ざらん王誰と善と爲すの薛居州獨宋王と如何

公孫丑問て曰く諸侯を不見不何の義を孟子の曰く右一ハ臣とす不バ見不段干木ハ垣と踰を辟泄柳ハ門を閉て内不是比皆已甚

斯は以て見可陽貨孔子に見つと欲て而して礼無を惡む大夫士又賜と有其家に受とて不得則はら往て其門は拜と陽貨孔子之亡と矚て而して孔子は蒸豚と饋る孔子も亦其亡と矚て而して往て之と拜是時當て陽貨先づ豈見不

卑尊皆非薛居州也王誰與爲善一薛居州獨如宋王何

右の類して孔子今薛居州ハ善士なりとて王の僚は君とらむた意旨も卑尊も薛氏の如くハ王も不善身の持するも若且一人も薛氏のやれば王も又誰を見たりして善身りらと爲べんや料より入の薛氏方便ありとて

○公孫丑問曰不見諸侯何義孟子曰

古者不爲臣不見

段干木踰垣而辟之泄柳閉門而不内是皆已甚

追斯可以見矣

魏の君丈公段干木が名あるを聞てその家に入りて至るに垣をよめて逃るる魯の穆公も又泄柳が室へ至るに門を閉て内へ入らざることなり是ハ皆已甚しと振舞ふとやのしむるに迫るるを思へ

陽貨欲見孔子而惡無禮大夫有賜於士不得受於其家則往拜其門

陽貨孔子之亡也而饋孔子蒸豚孔子亦矚其亡也而往拜之當是時陽貨先豈得不見

陽貨聖人も見んと欲て己を毎祀にいとむ事と惡てあつてあつて儀大夫より人へ物を賜ふに合ふる其使より親し受ると得ざるとは先がへいして禮を矚る豚の肉を饋つるハ内へ亡とを矚む矚て



得んや  
曾子曰く脅肩  
諂笑夏畦  
病子路曰く未  
病子路曰く未  
同言  
其色を觀バ  
赧然として由  
知所非是  
由之を觀バ則  
所可知已

戴盈之曰く什  
一にして關市之  
征去今茲未だ能  
未請之を輕く  
して以て來年  
を待て然して  
後已バ何如  
孟子曰く今人  
日小其鄰之雞  
を攘者有ん或  
之を告て曰く  
是君子之道  
非也曰く請之  
損以て來年  
を攘以て來年  
を待て然して後  
已人如其義

聖人の陽貨の内に亡時を求て根柢に往るは  
是は陽貨の礼を始り先づては色  
見るとしりとと  
得るとしりとと  
曾子曰く脅肩諂笑病于  
夏畦子路曰未同而言觀其色赧然  
非由之所知也由是觀之則君子之所  
養可知已矣  
曾子曰く我常に人ををるに  
見てハは若く汗ををる夏の炎天農人の畦  
ようして汗ををる如くに覺てこのどくなる又子路の  
曰く凡そ人の諷ひあるものハ已が志しと同トかぬに  
取合て言ひよとあり其人の面色を見たに付てハ氣の毒よ  
て赧然としては甚だ見苦く手前の後知る事  
にあらばとぞつら悪る詞を由ハ子路の名をる事  
事に由て觀バ君子ハ堅の徳を養ふと見るべし也  
と利欲をと諸侯はともとあるべしと也

○載盈之曰。什一。關市之征。今茲未  
能請輕之。以待來年。然後已。何如。  
宋の大夫載盈之曰く。先生の論に井田の  
の法を關所市街の征をを止去べしとの事甚だ  
且しとさとかり然と今茲の中ハ儀々能未請く  
少らめして來年を待て尽く己さるべし何如と也  
孟子曰。今有人。日攘其鄰之雞者。或告  
之曰。是非君子之道。曰。請損之。月攘一  
雞。以待來年。然後已。如其非義。斯速  
已矣。何待來年。  
孟子曰く。攘者めんり或人ありて是君子の道を損つとの事  
者あるて曰くさあるべし請くハ今と之を損つとの事



非ざるを知らず  
速く小己ん何ぞ  
来年と待ん  
公都子曰外人  
皆夫子辨を好ん  
孟子曰予豈辯  
を好ん哉予已と  
と得不天下之生  
久し一治一亂  
堯之時一當て水  
逆行して中國  
氾濫も蛇龍之  
居民定まる所  
無下なる者巢  
爲り上なる者

ハ宮窟を爲る  
書曰く洚水余  
を敬言し洚水者  
洪水なり  
禹を以て之と治  
む禹地を掘て之  
を海に注ぐ蛇龍  
と驅て之を道  
放つ水地中行  
江淮河漢是也  
險阻既遠  
鳥獸之人を害  
する者消然  
後人平土と得  
て之を居

擲て来年と待ん  
速く小己ん何ぞ  
来年と待ん  
公都子曰外人  
皆夫子辨を好ん  
孟子曰予豈辯  
を好ん哉予已と  
と得不天下之生  
久し一治一亂  
堯之時一當て水  
逆行して中國  
氾濫も蛇龍之  
居民定まる所  
無下なる者巢  
爲り上なる者

○公都子曰外人皆稱夫子好辯敢問  
何也  
孟子曰予豈好辯哉予不得已也天下  
之生久矣一治一亂

之時水逆行氾濫於中國蛇龍居之民  
無所定下者爲巢上者爲營窟書曰

洚水警言余洚水者洪水也

禹掘地而注之海驅蛇龍而放之道

水由地中行江淮河漢是也險阻既遠

鳥獸之害人者消然後人得平土而居

之

之

之

孟子二

孟子集解







一して邪説暴行  
有作臣其君  
弑其君者有子  
其父を弑する者  
之有  
孔子懼して春秋  
天子之事を  
是故孔子曰  
我者其惟春秋乎  
其惟春秋乎我  
惟春秋乎  
聖王作ら不諸侯  
放恣處士横議  
揚朱墨翟之言  
天下盈天下之

作臣弑其君者有之  
子弑其父者有之  
世衰へ道微りて邪  
者ども作らて父を弑  
孔子懼して春秋天子之事也  
是故孔子曰知我者其惟春秋乎  
其惟春秋乎我者其惟春秋乎  
乎  
横議揚朱墨翟之言盈天下  
天下之

言揚の歸を不  
則はら墨主の歸  
揚氏我為  
是君無墨氏兼愛  
是父無父無君  
無は禽獸也  
公明儀曰庖  
肥肉有廐肥馬  
有民の飢色有  
野の餓莩有此  
獸を率て人を食  
息不孔子之道著  
息不孔子之道著  
誣仁義を充塞  
仁義充塞  
則はら獸を率

言不歸揚則歸墨揚氏為我  
是無君也  
墨氏兼愛是無父也無父無君  
是禽獸也  
公明儀曰庖有肥肉廐有肥馬  
民有飢色野有餓莩此率獸而食  
人也揚墨之道不息孔子之道不著  
是邪説誣人人將相食  
士ハ各己の才智を以て種々の説を  
て天下の人の道とて言者  
必も墨翟が道に歸りて揚子  
の道に己の身を抱へんと







を放ちて三聖  
者承んと欲  
豈辨を好ん哉  
予已と得ざる  
能言て揚墨之距  
者聖人之徒

匡章曰陳仲子  
豈誠の廉士なり  
不哉於陵の居三  
日食せ不耳聞  
と無日見と無  
井上李有槽  
實を食者半小  
過匍匐して往  
之と食せんと將  
三と咽で然して

後耳聞と有目  
見と有  
孟子の曰く齊國  
之士は於て吾必  
仲子と以て巨擘  
と為然と雖も  
仲子惡んを能  
廉を充ん仲子之  
操と充ん則ち  
蛭を以て而して後  
可なる者なり

不得已也能言距揚墨者聖人之徒也  
我亦人の心を正し諷し行を距とめ右三聖人の志  
と承と欲のなり是に依て已ては得ざりて辯を好  
の理に當る言距の事と聖人の徒ありとや

○匡章曰陳仲子豈不誠廉士哉居於  
陵三日不食耳無聞目無見也井上有  
李槽食實者過半矣匍匐往將食之三  
咽然後耳有聞目有見  
誠に廉直の士と云ふや然して人の心の身に切なる  
のハ居宅と食物との二つならに仲子ハえより貪欲を  
して人より受ふ事を耻して於陵と云ふ處へ獨り居  
に三日と云ふ食事をせざる事ありて耳聞を目えざり

孟子曰於齊國之士吾必以仲子為巨  
擘焉雖然仲子惡能廉充仲子之操則  
蛭而後可者也  
君子人を誹議を事たり  
然とも行状を人より向とて明  
に答はる人の教訓に害あることなきハかくハ論ハ  
なり依て登て曰く今の齊の諸士のうち一日は  
さうして一其中に巨擘と云ふ一臣擘とハ手の大指  
として餘人を以ての指と比する者なり然とも直の廉直  
と云ふはべつと欲なると  
夫蛭上食槁壤下  
飲黃泉仲子所居之室伯夷之所築與  
抑亦盜跖之所築與所食之粟伯夷之



跖之築所與食  
之樹所與抑  
亦盜跖之樹  
所與是未可知  
可未

曰是何傷哉  
彼身履織妻  
辟纊以易之

曰仲子齊之  
世家萬鍾兄之  
祿以不義

之祿為食不兄  
之室以為不義  
之室以為居不  
兄之室以為居  
他日歸則有饋  
其兄生者已頻  
饋者有已頻  
願曰惡用是  
是駝駝者為  
用是為哉借其  
母是駝殺之  
食之與其兄外  
自至曰是駝  
駝之肉乃出  
之也

所樹與抑亦盜跖之所樹與是未可知

也何となくハ蚊の性として構う壤を食して下濁

仲子ハ人をもて世にたふさるるのハせし居室食物の  
らるるあるべしその二ツリヤ我しうらるる時ハ  
やとやうそをたたとてその室居ハ伯夷が如く簾直  
なる人の築所ののりやハむらりの盗人跖が如く死者の築  
所としてハたさるその食とまもる粟ハこれと伯夷の樹や  
いハむらり踏ハ樹やハ人  
是理未と知可か  
曰是何傷哉彼身

織履妻辟纊以易之也匡章又曰是式に

曰仲子齊之世家也兄戴

蓋祿萬鍾以兄之祿為不義之祿而不

食也以兄之室為不義室而不居也辟

兄離母處於於陵他日歸則有饋其

兄生駝者已頻願曰惡用是駝駝者為

哉他日其母殺是駝也與之食之其兄

自外至曰是駝駝之肉也出而哇之

孟子又説クハ仲子之來貧者にありんか世々蘇丹の大夫  
の家たり兄の載蓋ハ万鍾の祿なり然り兄の祿ハ良  
まらハ不義我なりとて食セセ兄の室を不義なりとて  
宿セハ母と兄とに辟居て於陵に處たり他日家に歸り  
るる拆ふハ兄載蓋に生駝の肉と饋りのり仲子見  
て眉を頻願て曰く悪この駝駝の者何と為哉人



母を以てしては  
 則ち食せ不妻  
 を以てせんば則  
 ち之を食む兄之  
 室を以てせんば  
 則ち居弗於陵  
 を以てせんば則  
 ち之を居是尚  
 能其類と云ん乎  
 仲子の若き者ハ  
 蚓を以て而して  
 後其操と充  
 る者なり

よ、おろ、がゆ、なり、驪、の、り、敷、り、又、他、の、  
 母、は、鳥、を、と、り、て、食、む、と、し、て、  
 戴、蓋、外、より、帰、り、て、曰、く、  
 鳥、の、肉、を、と、り、て、食、む、と、し、  
 以、母、則、不  
 食、以、妻、則、食、之、以、兄、之、室、則、弗、居、以、於  
 陵、則、居、之、是、尚、為、能、充、其、類、也、乎、若  
 仲、子、者、蚓、而、後、充、其、操、者、也、  
 兄、の、家、に、居、宅、せ、ん、と、し、て、  
 操、節、を、充、分、守、の、類、と、い、ふ、  
 比、して、な、ら、ば、廉、直、な、ら、と、同、位、  
 充、る、の、と、  
 い、り、ん、ふ

孟子卷之二畢



